

大臣  
次官

電信課長

主管

Handwritten signatures and stamps, including a circular seal with the characters '外務省' (Ministry of Foreign Affairs).

電受第一二五二號 明治三十二年九月九日 午後二時五分 發

外務大臣

海運長官

江刺警備署長電報

大日午前四時果不著也。以今新港丸入港  
四港丸船長より付寄るもの、言、同、巴老  
丸船長の電西五号、行、捕虜方取り

外務省

疾し、捕虜方取り、外、海、運、長、官、一、者  
日、中、捕、虜、方、取、り、可、し、や、ら、ず、特、檢、査、官、に、  
日、六、日、十、夜、由、館、に、龍、夜、船、を、模  
擬、し、又、船、長、の、船、長、に、對、し、出、館、  
軍、機、に、水、雷、艇、を、存、在、し、危、険、防、備、  
機、標、に、シ、テ、船、長、の、十、日、程、前、迄、  
出、館、し、下、船、水、雷、艇、を、存、在、し、之、を、  
不、知、し、る、事、ト、由、電、に、船、長、に、午後、四、  
時、迄、出、館、し、下、船、行、く、事、ト、同、日、  
水、雷、艇、の、存、在、を、午後、二、時、頃、福、山、沖、に、



到着し存り多し。在車報

外務省

5-0363

0100

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

同文通

大臣

次官

電信課長

主管

電受第一三五三號 明治三十四年三月九日午後三時五分 發着

外務大臣 海軍大臣

江刺警務署長 同日午前十一時  
十五分着電報五

福井中村三正所有日吉形帆船  
P. 九一四八三石積。同日午前十時

外務省

二時水信守一五五号車往百七号、  
所大島日吉上港西北(福井知左  
近橋左門所有日吉形帆船八  
艘一三三石積。同日午後三時此  
信三正一五五号車往百七号十九  
分所大島日吉上港西北(福井知左  
露田水信守一五五号車往百七号  
日吉形帆船三隻。同日午後三時  
日吉形帆船三隻。同日午後三時  
日吉形帆船三隻。同日午後三時  
日吉形帆船三隻。同日午後三時

不副加長、函館カニ長先之露  
周水浦艇ヨリ、公書、携帶、  
又報徳丸、船内搜索、上、余、  
、陸、舟、ヤ、エ、多、  
右申報、

外務省

5-0363



大臣

電信課長

東京

次官

主管

生

Handwritten signature

電受第一二五四

號

明治三十七年六月十九日 午後六時五分

發

小村外務大臣

水雷艦長

東京水雷艦長

江差水雷艦長

一和戦事情に依りて左様

外務省

シ叔セシノスベク余義ナクサレテ存リシ事ヲ甚

お先ノ毒私ハ此ノ閣下ハ彼等ヲ救フデア

口ウ敬白

トアリ尚世而一區事セ意保ノ上中核ス

由陸軍省

大臣

電信課長

次官

主管

電受第三五五號  
明治廿七年六月十九日午時十分  
發

小村外務大臣 幕 村倉信成 謹使

元五五〇號

元山大本

秘正電報司 威典之南、距八半

外務省

里豐湖星之於之書間ノ三ノ并始  
右轉重

大臣 了

電信課長

次官 了

主管

了

電受第一三五六號 明治三十七年六月二十日午後一時五分 發

小村外務大臣 北海道廳長官

福山警務署長電報(二十日午前)

九時卅五分着)

今入港、神奈川丸、諸倍六十九番番

外務省

九時十一分、間江差沖七八〇里、交

軍艦四隻見たり

右申報ス

回文三

(厚田 郡)

大臣

次官

電信課長

主管

電受第一

二二六〇號  
明治三三年六月二十日午後二時五十分

着發

少村外務大臣 青島道廳長官

アツタモウライ 組合長より電報(廿日午前九時着)

外務省

今アツタ 沖二十哩餘ノトヨ白キ船五隻

北より南ニシク船体ノ模倣判以英軍ニ船ナラム

右申報ス



内務大臣  
六月二十日  
前十一時十五分  
後三時十五分  
日

福田  
たぬ

今朝十時三十分沖之島方面に當り六波羅砲  
聲入り河内及河司砲泊、司令部、午前十  
一時より西行船船、出發、差止、

政務局  
生

了  
生

今朝十時三十分沖之島方面に當り六波羅砲  
聲入り河内及河司砲泊、司令部、午前十  
一時より西行船船、出發、差止、

生

内務大臣  
二月廿四日  
其海道府長官  
二月廿四日

福山警務長。電報(昔年九月廿三日)  
今入港。非在川丸。証。依。昔年  
十月廿一日。向江差津。七百八十津。所。  
船。四隻。見。夕。  
右。申。報。又。

5-0363

0115

馬場



内務大臣 福島子好子

六月廿九日 午後三時 東京 馬場

已令長下大島沖附近之砲臺

裏々交戦中ト、他砲臺ナシ

毛本砲臺山岸ニテハ子ノ家裏ニ

十二

内務省

内務大臣 山口縣 義事

六月廿九日 午後六時 東京 馬場

今後一特三〇分ヨリ朝解

近海ニ雷ニ二三発ノ砲聲

ヲ聞ク

由務大臣 藤田 忠成 奏  
 高力好古等早朝の事  
 厚田等乗組各員ノ電報(廿日  
 有九時半着)今厚田陣廿四ノ処ニ  
 白水船五隻並ヨリ南ノ行ク船  
 体ノ様極劣明セテ軍艦十之ニ  
 右中報ス



内務省

内務大臣 福澤 品治 奏  
 六月廿二日始末時分九時十分着  
 取不甚屋港油夫ハ昔陣在ニ船ヲ  
 并浮三時以和氣在船一艘ヲ折  
 之ナル旨今日届出タルカ一内ニ  
 位ノ彈片一個及ヒ三ヨバハン二個並ニ大  
 骨ノ粉細ミタルモノ若干他木製  
 物ノ一箇薄ボタン一箇祭見ス



内務省



大海報第五拾五號

出



函館附近ニ現レル浦塩艦隊ニ関スル  
情報ノ主要ナルモノ左ノ如シ

六月十八日福山ヨリ午前六時大本營着電

浦塩艦隊三隻午前五時十分小島沖ヲ運動ス

六月十八日函館ヨリ午前六時五分大本營着電

今露艦三隻福山沖ニ現レ發砲セリト松前郡

江良村ヨリ電報アリ

六月十八日陸奥龍飛崎ヨリ午前八時十分

大本營着電

敵艦南航シ其影ヲ失フ

六月十八日艦作崎ヨリ午後一時大本營着電

敵艦ハ針路ヲ北西ニ取り其影ヲ失フ

明治三十七年六月二十日

大本營海軍幕僚

大海報第五拾六號

本

上村第二艦隊司令長官報告

六月十九日午後

十五日午前八時哨艦對馬ノ無線電信ニ依リ敵艦隊沖ノ島附近ニ現レ南方ニ航行スルヲ知リ直ニ永雷艇隊ヲ急行セシメ對馬壹岐間ノ水道ヲ警戒シ西方ヨリ来ル船舶ニ對シテ竹敷ニ避ケシムヘキヲ命シ又門司港救部ニ電報ヲ発シ西航ノ船舶ヲ停止セシムヘキヲ傳入在竹敷及哨艦服役中ノ諸艦ニ無線電信ヲ以テ至急來會スヘキヲ命シ本隊ハ對州南端ヲ經テ急航セリ當時天候次第ニ險惡トナリ暴風之に伴ヒ屢々後續戰隊ヲ見失フニ至リシガ神崎附近ニ至リ一般隊ヲ本隊ニ合セ敵

艦隊ヲ北方ヨリ壓センカ為メ針路ヲ沖ノ島ノ北方ニ取リ此間哨艦對馬ハ絶ヘス敵艦隊ト觸接ヲ保テ敵情ニ關スル報告ヲ努メタリ正午哨艦對馬ヨリ無線電信ヲ以テ敵艦隊ハ沖ノ島南方約十五海里ニアリテ北西ニ航進ストノ報ニ接レ次テ濠洲ノ為メ敵影ヲ失フトノ報ニ接ス干後一時半沖ノ島南約五海里ニ於テ再々敵艦隊ヲ發見セシモ濠洲ノ為メ直ニ之ヲ見失ヒタリトノ報ニ接セリ依テ針路ヲ右轉シ敵艦隊ノ所在地タル沖ノ島ノ南方ニ邁進セシカ此時濠洲ノ最モ烈シク視界益々狭キカ故ニ敵ト會セハ直ニ接戰距離ニ入ルヘキヲ思ヒ益々各艦ヲ戒飭シツ、航進シ敵ヲ搜索セシモ濠洲ニ之ヲ又見スルヲ得ス此時哨艦對馬列ニ入ルノ報ニ接ス茲ニ於テ本

職ハ敵艦隊カ濃氣濃密ナルニ乘シ既ニ北方ニ退却セシモノト判断シ之ヲ追尾センカ為メ針路ヲ北方ニ轉セシモ兩愈々烈シク視界益々狭ク敵影ヲ発見スルノ望ミ殆ント絶ユ依テ翌早朝敵ト會戦スルノ望ミヲ以テ速カラ増加シ敵ノ退路ヲ扼スルノ地點ニ針路ヲ定ム此間我艦隊諸艦カ高速カラ以テ濃氣四塞ノ間ニ不規ノ運動ヲ行ヒ直毛厘ノ故障ナカリシハ本職ノ満足スル所ナリ此夜敵艦隊ヲ以テ索敵運動ヲ執ラシメシモ其目的ヲ達スルヲ得ザリシ

十六日黎明豫定地點ニ達ス此時天候回復シ視界亦廣カリシモ遂ニ敵ノ隻影ヲ見ス依テ更ニ針路ヲ轉シ索敵運動ヲ繼續セシモ其効ナク十七日敵艦隊ハ尚本邦沿岸ニ在ルモノ如キヲ以テ之ヲ邀撃せんカ為メ巡洋艦隊ヲ以テ搜索

列ヲ張リ南下セリ此日天候至テ平穩ニシテ視界廣ク心竊カニ搜索ノ好望ナルヲ期セシモ遂ニ敵艦隊ニ會セズ同日午後對州ノ北端ヲ距ル北東約百海里ノ地點ニ來リシニ無線電信ニ依リ敵ハ北海道方面ニアルノ情報ニ接シタルカ故ニ索敵運動ヲ止メ今日歸港セリ此行動中約四晝夜ノ搜索運動ハ遂ニ何等ノ功ナクシテ歸航ノ止ムヲ得サルニ至リシハ深ク遺憾トスル所ナリ終ニ臨ニ本職ハ玄海灘ニ於ケル遭難諸士ニ對シ深ク痛恨哀悼ノ意ヲ表スルモノナリ

明治三十七年六月二十日 大本營海軍首席僚

大臣 次官 政務 通商 取調

Via

Dated London, June 20th, 1904. 1.20p.m.

Received Tokio, June 21st, 9.30a.m.

Komura,

Tokio.

No. 179. Reuter's telegram says that Vice-Admiral Skrydloff sent June 19th the following telegram to the Czar:

Our Cruiser Division encountered June 15th in the strait of Corea Idzumi-maru with troops on board and steaming from the south in the direction of Japanese coast which was visible on the horizon. At the expiration of the period given to those on board to lower boats and leave ship, of which part of the crew took advantage, transport was sunk by our guns. Shortly afterwards at the south-east two more transports Hitachi-maru and Sado-maru were seen, the one with troops and the other with coolies, horses and railway plant, besides the crew. These transports

電受第

2400號

Wds.

189

( 2 )

refused to surrender and at the expiration of the period granted those on board to take their boats the two ships were sunk, by torpedoes and shell. Losses on the three transports aggregating to about 15,000 tonnage consist of a portion of troops and crews and of large quantity of war material and railway plant. Our squadron on June 16th fell in with British steamer Allanton proceeding south with a cargo of coal from Muro-ran. Want of clearness of her papers and irregularity of her log excited suspicion as to her cargo. She was therefore sent to Vladivostock in charge of a detachment of soldiers under Lieutenant Petroff, and has arrived Vladivostock where a prize court shall consider the case.

Reuter's telegram added that it transpires that the raid was carried out by Vice Admiral Bezobrazoff, while Skrydloff remained in Vladivostock.

Hayashi.

5-0363

0122



電信譯文 倫敦三月廿五日  
東京三月廿一日

小村外務大臣 在英 林全權公使

第百七十九號

ルーター電報依ルニクルイドラ海軍中將ハ六月十九日電信ヲ以テ左ノ旨ヲ露國皇帝ニ上奏セリト云フ

我巡洋艦隊ハ六月十五日朝鮮海峡ニ於テ和泉丸ニ出會セリ同船ハ陸兵ヲ搭載シ水夫髻髻タル日本海岸ノ方向ニ向テ南方ヨリ航進シ未レルヲ認メテ依テ其乗員ニ對シ端艇ヲ下シテ本船退去ヲ為シ猶豫期間ヲ與ヘタリシカ船員ノ一部ハ之ヲ利用シテ遁レタリ其期間、終了スルヤ同船我砲撃ニ依リテ沈没リ之ニ次テ尚

二隻ノ運送船即チ常陸丸及佐渡丸ヲ南東ノ方向ニ認メテ其一隻ハ陸兵ヲ搭載他、一隻ハ軍夫馬匹及鐵道材料ヲ搭載セリ此等運送船ハ降服ヲ拒ミタリ而シテ其乗員ニ對シ端艇ニ乘移ル為ニ與ヘシ猶豫期間、終了スルヤ二隻共水雷及砲彈ニ依リテ擊沈シ右運送船三隻噸數合計一萬五千噸ニ上リ陸兵船員共ニ多量ノ軍用品及鐵道材料ヲ搭載シ我艦隊ハ六月十六日英國汽船アラントン、室北蘭ヨリ石炭ヲ搭載シテ南方ニ航進スルニ出會シタリ同船ハ船舶證書明晰ヲ欠キ又航海日誌不整備ナリ依リ其貨物ニ関シ嫌疑ヲ發ヘキモト認メトシ大將ノ引率スル一部隊ノ兵員ヲ派シテ其監督下ニ之ヲ浦潮斯德港



ニ送致キリ同船ニ既ニ浦潮斯德港ニ着シ捕獲審檢所ニ於テ  
本件審檢ノ答ナリ  
ルーターニ電報ニ尚ホ附言ニ曰ク  
今回ノ襲撃ニハ「ソララソラ」中將ノ實行ニ係リスルイロハ中將ハ  
浦潮斯德港ニ止マリタリト云フ

生

北海道長官

片原大正

電送第七五號

近頃赤心軍將出沒、果ては電ヲ見ル

各地方より、<sup>電報</sup>電報ハ、<sup>電報</sup>電報ハ、<sup>電報</sup>電報ハ、<sup>電報</sup>電報ハ、

且、死ク、<sup>電報</sup>電報ハ、<sup>電報</sup>電報ハ、<sup>電報</sup>電報ハ、<sup>電報</sup>電報ハ、

以上ノ差アリ、<sup>電報</sup>電報ハ、<sup>電報</sup>電報ハ、<sup>電報</sup>電報ハ、<sup>電報</sup>電報ハ、

外務省

5-0363

0125

大臣 次官  
政務 通商 人事 會計 取調

Via  
Handwritten signature

Dated, London, June 21st, 1904. 0.40p.m.  
Received, " 22nd, " 7.12a.m.

Komura,  
Tokyo.

181 According to Reuter's telegram from St. Petersburg Admiral Skridlof June 20th telegraphed to the Czar that Russian cruisers had returned to Vladivostock without sustaining any loss or damage.

Hayashi.

電受第 24 / 1 號  
Wds. 27

新  
信  
紙

大臣 次官  
政務 通商 人事 會計 取調

Via  
Handwritten signature

Dated, Shanghai, June 21st 1904. 4 2.20p.m.  
Received, " " " 4.21 p.m.

Komura,  
Tokio.

No. 202.

Please telegraph detailed account of the raid of Russian fleet and also of the pursuit of the Japanese squadron, as it is quite necessary to publish it for maintenance of the credit of our official report.

Ogagiri.

電受第 24 / 1 號  
Wds. 27

電送第 335 號  
Wds.

在上海

十田切總領事

小村外務大臣

(内田野向、轉電シ夫ヨリ更ニ轉電セシメ)

在韓

サ秋原代理云使

上村中将云報、要領

十五日午前八時哨艦對馬ヨリ敵艦隊、沖島

附近ニ現ハレタル報、接シ本隊ニ對州南端ヲ經

テ急航更ニ一艇隊ヲ本隊ニ合セ敵ヲ北方ヨリ

壓セレカ爲リ針路ヲ沖ノ島、北方ニ示シ此間對

大臣 次官  
政務 通商 人事 會計 取調

中

Sent. 21-6-1904. 11. 8 a.m.

Via

馬繼ハ絶ハス敵艦隊ト觸接ヲ保テ敵情、固スル報告ヲ  
努メラシム濛雨ノ爲テ遂ニ之ヲ見失ヒタリ依テ更ニ沖ノ島ノ  
南方ニ遠進セシカ敵ヲ発見スルヲ得ズ茲ニ於テ敵ニ濛氣  
濃密ナル、兼シ北方ニ退却セシメト判斷シ北方ニ轉進セシ  
テ兩愈烈ニテ眼界益々狭ク敵影ヲ発見スルヲ望ミ絶エ  
依テ敵ノ退路ヲ振スルノ地点、針路ヲ定ムテ十日黎明豫定  
地点ニ達ス此時天候回復シ視界亦廣クシテ遂ニ敵影  
ヲ見ス更ニ針路ヲ轉シ倭敵運動ヲ繼續マシテ其効ナクテ  
七日敵艦尚本邦沿岸ニ在ルモノハキリ以テ搜索列ヲ強ク南下セシ  
テ敵艦會ハス十九日敵艦シタリ

5-0363

0127

10

電信譯文

倫敦發冊七年六月廿一日  
東京着 廿二日

小村外務大臣

在英 林全權公使

第百八十一號

露都ヨリノ「ル」ター「電報」ニ依レバ露國巡洋艦隊ハ

何等ノ損害ヲ受ケズニテ浦塩斯徳ニ歸着セル旨

六月二十日「スタリドロフ」中將ヨリ露帝ニ電奏セリト

云フ

送



内務大臣 山口 孫助

廿二日 午後十一時 神島方面

砲撃

内務省

5-0363

0129

明治 年 月 日  
同 年 月 日  
起草  
日發遣

電送第六の號  
明治三十五年  
九月 日

主任



生

小村大臣

在 拜

秋原臨時代理

（中三五三号）

西武子艦隊浦塩一物港

セウ右元山リ陰キ右領事

外務省

ニ付 郵便アリタシ



大臣

電信課長

次官

主管

電受第一三六八

號 明治廿一年六月廿三日 午前九時五分

發着

外務大臣

元山大木副總事

才二四号

釜山本邦間航海中止サレシト、既アリ月  
下斯ノ中ノ状態存続ニテ電報ノ全ク

外務省

Handwritten signatures and stamps, including a circular seal.

明治 年 月 日  
起草  
日發遣

電報

主任

カ村大臣

左元山

ノ

電送第...  
明治...  
日

大木副領事

第...  
( )

貴電...  
...  
...

艦隊...  
...  
...

外務省

航海中止...  
解除セウ

レ...

込

大臣宛 福岡縣知事

六月廿四日 前上時發

同 後二時二十分受

縣下企救郡長濱ノ澳夫昨夜九時頃  
沖ノ島沖ニ出澳中對馬方面ヨリ点燈  
セガル一隻ノ汽船来リ同所ヨリ船首ヲ  
轉シテ浦塩方面ニ向ケ進行シタルカ暫  
クシテ再度右澳船ノ居ル位置ニ来リ其  
周圍ヲ廻リ(此時澳船トノ距離僅ニ五間

位)其終浦塩方面ニ向ヒタル歟キ澳夫  
語ルニ餘リ大ナラガル軍艦ニテ烟筒一  
帆ニ白地ニ角達十文字ノ旗ヲ掲ケタリ  
ト云フ

大臣宛

福岡縣知事

生

六月廿四日 前十一時發

同

後二時二十分受

縣下企救郡長濱ノ澳夫昨夜九時頃  
沖ノ島沖ニ出澳中對馬方面ヨリ点燈  
セガル一隻ノ汽船来リ同所ヨリ船首ヲ  
轉シテ浦塩方面ニ向ケ進行シタルカ暫  
クシテ再度右澳船ノ居ル位置ニ来リ其  
周圍ヲ廻リ(此時澳船トノ距離僅ニ五同

位)其終浦塩方面ニ向ヒタル録キ澳夫  
語ルニ餘リ大ナリガル軍艦ニテ烟筒一帆  
柱ニ白地ニ角達十文字ノ旗ヲ掲ケタリ  
ト云フ

Old Code

波 古  
古 古

fil  
Takahira  
Washington

No 217

電送第

三三八  
の  
號

You will ask Secretary  
of State to cause U. S.  
Ambassador in Russia  
to ascertain from the  
Russian Govt. and telegraph  
names of principal prison-  
ers taken by Vladivostok  
Squadron at their recent  
attack on our transports.

Immediate action  
desired.

Komura

sent June 24<sup>th</sup> 1904 040 pm

5-0363

0135

明治三十七年六月廿四日接獲

主官 政務局

滿發第二二七二號

受取 八六三六號

本月十九日吾等之海洋ニ於テ陸軍運送船遭難ニ際シ羽之  
 十官門司出帆ノ英國汽船 *Quilbar* 號布哇一航以ノ途  
 次沖ノ島附近ニ於テ佐渡丸ニ衝突シ七名ヲ救助シ特  
 長崎ニ寄港シ敷設隊監視船ニ於テハ救ヲ受ケタル旨報告  
 接ニ感謝ノ旨ニハ然ラハ不取敢長崎知事ヲ介シ該船  
 長 *J. J. Campbell* 一様抄為該旨ニ得共貴官ヨリ  
 其旨ニ對シ感謝ノ意ヲ表シ之被此段及照察ハ也  
 明治三十七年六月廿三日

陸軍大臣寺内正毅



外務大臣乃春小村善太郎殿

陸軍省

5-0363

0136

明治卅七年六月廿三日接受

主官 政務局

生 垣 四

第八六九三號

高塔成券二九三三号

露艦ノ動静ニ関スル件

本月十八日渡島國松前郡沖合ニ於テ本

邦商船ニ差スル露國軍艦ノ動静ニ

関シ列紙ノ通 福山警務署長ヨリ報

告ナリ

右及報告也

明治卅七年六月二十日 北海道廳長官男爵園田安賢

外務大臣男爵小村善太郎殿

北海道廳

通報先

外相 外相 海相 陸相 横須賀鎮守府  
第七師團長 函館防務部長 大野 大野  
神奈川兵庫長 警務署長 秋田 山形 岩手 盛  
岡 青森 福山 山形 愛知 大塚 京都

福地警務長カニニニ一号ノ内

露艦ノ件報告

本日より何時までも露國軍艦三隻哥内松野郡  
 根野田村ノ距ハ五里ノ外近ニ頭出シタルヲ訊  
 メ本廠由館等署司令官及西館江若少将  
 ノ各營房其他関係官艦ハ警戒中ヲ打電  
 シ一面署員ヲ警動シテ嚴ニ警戒中ニ露艦  
 ハ小島ノ東方五里ノ距ニ沖合ヨリ若天島ハ  
 向テ八里許ノ処ニ接近シ我ハ小島船ヲ包  
 圍シタルヲ如クテリカ後チ露艦三隻共  
 ニ小島方面ニ航路ヲ変シツテ航行シタル  
 事ハ午前十時三十分我商船ヲ襲撃敵艦出會  
 セリトノ信報旗ヲ掲ケテ當地ニ入港セリト



船ハ西館當所所結村佐助其有ノ新津港船  
 致百八十五噸ニシテ船長中塚茂十郎以下  
 十日名ノ乗組ナリ航海長阿部政太郎ニ執  
 本口午高一時五分間知えりし如シ  
 一本船即チ新津港ニ於テ本月十七日午後六時三  
 十分秋田縣船代津ノ発リ向テ  
 行中同日午後九時五十分船作沖ノ向テ  
 進行通過ノ際北方ニシテ一東ノ遠海船  
 ニ於テ此ノ船ヲ燈火ニシテ見テ其ノ船長  
 行ノ来ニ本朝三時五分本船ヲ見テ  
 遅ノ距離ヲ揮ニ初前舟巾島沖合ニ  
 艦船ニ隻ノ乗見セリ同日三時四十分  
 頃遠海船ハ本船ニ向テ空砲ニ發テ放チ

日時ニ因テ旗ヲ掲ケヨト信歸るヲ以テ国旗  
 ヲ示シしモ其後船ノ又寄寄信歸ヲ示ス  
 ベシトノ信歸ヲ揚ケタリ作テ本船ハ不  
 ニ新津港ナル旨ヲ五信ニシテ止セシメ  
 信歸ト共ニ積荷ノ何カヤヲ各信トシテ  
 以テ傳船ノ上積荷ナキ旨ヲ詳告シタリ  
 際早ク其ノ戦國船一隻本船ノ左側ニ  
 接近シ土岸ト見科ル者ニシテボシスキヤ  
 ンツルト是ハ日本人今日リテモトノ言ヲ  
 發シテ号唱ヲ揚ケタリ本船亦五ノ高ニ  
 高答ノ意ヲ表スル中其船集ヲ  
 進メトノ信歸ヨリ各船列ヲ云ヒ北  
 北東方西ニ航行スルヲ以テ本船ハ其處

二  
 船ノ隻已又進イトリ信條ハ故シ自ラ運  
 信ルルヤ日本船ニ寄リシノ信号モナリノ  
 解ルル船ソカレモ其船ノ寄リ方尚ニ航  
 行ルルヲ以テ此様ニ来リ進進スルコト決  
 シ全速ヲ以テ香港ニ入洋シタルナ  
 ルカ本船カ其船ニテ進進スルニ際シ松前  
 郡江良丹村沖合ニ高船ノ碇トシ一隻ハ  
 既ニ日本船ノ方ノ又包圍スルアリアルモ  
 一、如クモ本船ノ何等使テテ其受  
 ケルコトナシ、其之船身一白ニテ事ナシ  
 航路ノ便ヲ得ル上、更ニカ樽ニ直航スル  
 見込ナリシカ本船ノ碇船トシ合間在  
 ノ際ニ於テハ位置ノ碇トス一号碇田ノ

然レニ日本午前ノ時更ニ一隻ノ日本汽船ハ之  
 敵艦見入リシノ信号旗ヲ揚ゲテ香港ニ向  
 ケ、島方ヨリ来リテ碇ノ入港ヲ待チ船  
 身ニ碇子ヲ懸湖所ニ碇所業者ノ上陸ヲ不  
 タシニ同シテ松前郡江良丹村沖ニ碇テ露  
 艦ノ方ノ碇間ヲ受ケタル状況ヲ左ノ如ク  
 陳ス  
 一 本船ハ松前郡福山町山本順次ノ所有ニ依  
 リ汽船ニ港名海嶺敷ニ百辛ハ碇テ  
 本月十六日西午小見國利船ヲ出帆シ青森  
 向テ航行中本日午前五時辛ノ碇松前郡  
 江良丹村ト碇口村ノ沖合碇地ニ碇  
 碇

三  
二 茲に露艦二隻、七人會下、同五時、甲子、空  
船一若、ヲ、テ、本、船、向、進、行、ヲ、止、ム、日  
ト、信、号、ヲ、更、ニ、短、艇、ヲ、即、セ、本、艦、ニ、来、レ、  
ノ、信、号、ヲ、指、ケ、ル、一、付、船、長、自、身、及、船、員  
三、名、ハ、會、計、任、其、他、ノ、衆、組、員、ト、決、別、  
上、北、北、ノ、準、備、ヲ、為、シ、敵、艦、口、モ、一、時、  
行、テ、時、一、時、投、ト、思、ハ、シ、キ、マ、リ、一、時、  
如何、ナ、ン、状、况、ト、シ、キ、マ、リ、又、田、港、ニ、  
露、艦、等、數、艘、ヲ、シ、ヤ、ト、シ、テ、審、問、シ、又、  
鐵、ヲ、獲、テ、居、リ、テ、亞、ヲ、留、問、シ、レ、ル、私、  
長、ハ、露、艦、ヲ、十、日、間、以、前、ニ、出、帆、シ、タ、ル、  
考、滿、洲、南、洋、ヲ、獲、テ、帶、セ、ル、ノ、事、ヲ、露、艦、  
ノ、我、在、船、數、等、更、ニ、知、リ、ナ、シ、旨、ヲ、次、  
詳

答セシニ、彼レハ、船、積、管、船、及、口、船、客、ノ、員  
數、及、口、少、港、地、及、人、港、地、ヲ、問、フ、事、  
船、ノ、和、房、ヨ、リ、青、木、次、郎、向、テ、航、行、シ、  
ホ、十、名、船、員、十、七、名、十、八、名、ハ、船、客、  
ノ、上、歸、船、ヲ、今、日、具、馬、佐、渡、丸、  
員、ノ、一、名、同、露、艦、ニ、テ、以、テ、面、會、  
サ、レ、タ、且、同、行、タ、ル、露、艦、以、テ、タ、ル、  
持、渡、丸、乗、船、員、ハ、攻、身、手、度、武、存、元、吉  
三、名、ヲ、受、テ、取、リ、船、ヲ、退、キ、タ、ル、  
艦、相、會、シ、西、南、西、ニ、向、テ、奇、跡、ヲ、取、リ、  
行、セ、テ、以、テ、漸、ク、虎、口、ヲ、逃、レ、テ、露、艦、  
ヲ、得、タ、ル、モノ、ナ、リ、シ、カ、案、見、レ、タ、ル、  
ハ、四、本、煙、筒、三、本、檣、二、隻、及、二、本、煙、筒、三、本

橋一隻をシテコシヤシカシゴイシツウツクノ  
 三隻ナリト島料セシメシカシコシヤシカシ  
 比ラ旗艦ノ如ク内ヲコシヤシカシヨリ命令  
 フテ他艦ヲ指揮シ居リ備ワラ各艦  
 甲板ニハ將校充満シ下底ニハ兵士充満載  
 シ且ツ水雷艦ニ隻ヲ上載スルヲ詔メタ  
 リロカ露艦ヨリ更其ノ来シニモ世居ル  
 東船員ハ今茲ニ同行スルニ付本三人就  
 ナリシ海へアルシト  
 高崎身取武儀郡南武藝村大字路平  
 月廿九日軍天タリニ武蔵元吉  
 二十三日ノ開陳スル処左ノ如ク  
 一私ハ廣島ノ陸軍々夫デスガ本月十四日

品ニ於テ修渡ルト云リ南用船ニ無込  
 三行先ハ不明ナルモ多分朝鮮ノ鎮南  
 浦ト云フ処ハ行クモノト思ヒ候カ本  
 月十五日午前五時カ方時カト思ヒ頃  
 馬関海峡ノ向ラヒノ処ラハツレ島  
 ト云リ島ノ知ラヌカ方向不明ノ地ニ  
 當リテ澤山ノ砲聲ヲ聞キセシタ私  
 ノ乗ツテ居ル船ノ海軍將校ハ皆少  
 ニ於テ我軍艦ノ演習スル者ナリト云  
 ワリ船ハ行キマシメカ其日ノ午前九時  
 頃露艦三隻ト佐渡島ト出會シ  
 シタガ露艦ハ我カ船ニ向テ一發ヲ砲  
 シマシタリテス我カ船ハ此彈カノ為ノ

フスヨロシラ響カスレ又一発コソノ部屋  
 へ命申シマシタ此時ボクは名も負  
 傷セリ而シテ叙軍人夫ハ軍夫頭ノ  
 班長カ軍夫ノ甲板ニ出ルコトヲ止メタ  
 ルニヨリ私著ハ上ニ出テサリシモ將校ハ  
 皆食事をセヨ又行李ニ飯ヲ詰メ  
 ヨト命シタリ又弟ニ各自ノ弾丸カ當  
 リマシタトキニ皆逃レコトヲ得レリ逃  
 道モヨト命ハタセラレタリ故ニボ  
 ニ来リテ逃レタルモアリ私ハ裸体  
 ニテリテ海へ飛込メ金刀ヲ注テ游泳  
 タル時恰モクックト稱ス浮キリ漂  
 流し居シヲ冬見シ直ニ之ヲ胎ニ付着

シ游泳ヲ引續ケタリ此時露船ノ為ニ陸  
 地ノ方向ヲ知ル能ハラレ日本ノ東ノ  
 洋ニ遊ケシラハバトモカ遊ニ遊  
 自ノ船ハ下ノ露船ニ乗テス  
 衣ガ被テ靴ヲ履キ先帽モ個及ハニ  
 予ガ右ヒリ薄茶色私ラハ細キハ  
 予ニ乗テ居リマシタガ露船ノ上ニテ也布  
 ニ乗テ居レ露船ニ一ヒテ明シタリ

北海道廳

一日一月廿五日(期)日本東ノ船が糖  
及糖ト給ヒリ千前上等質ノ糖一箱ノ重  
声ノ重々自時ニ重々私ニ船カ乗ル  
見ヨト去フ様トナトスル故意ヨリ登  
見スルニハヤリスノ國旗ヲ付ケテ  
ル船カ見ヘミシタノ故思ヒスル也  
十二時頃舞臺中ノ邊ニ行キテ  
ノ上先方ノ船ヨリ十一名ノ人カ乗ル  
テレテ乘テ内是船日本ノ人カ乗ル  
方ノ人モ不審ノ様ニシテ此日本ノ人カ  
懐込北由奈西也子自一巻地盤源干城二十  
才ト多クノ人カ乗ルノ人カ乗ル

本島出

出乗ルノデシタ此者ハ其果組中ノ船ハ  
アマイントシテ号トナリ流船ヲ小橋ヨリ  
石炭ヲ積ンデアマリカニ行ク処ヲアツタ  
ト云ロマシタ初モ又之レ近ノ経過ヲ明シ  
テ三人テ一室ニ入レテ居リマシタ英  
船ヲ乗船ニ收容セラレタル名ノ内ニ  
ハニ等ノ運轉手モ名モ居ル由ナリ露  
船ヨリ其船ニ乗人カ乗ルハ浦塩ノ行  
ツラ石炭ヲ揚ケタル後英國ノ歸國セシ  
ムバシト云フコトテ私ハ浦塩ノ船  
カノ港ニタラ長崎ノ歸シテ遣ルルナリ  
ト叙員カ明シテ居ルノヲ英國船ニ等運  
轉士カ露語ヲ解スル者ノ間キテ僕ニ

知ラセルニ英語ニ解シテ知ラセタト云フエ  
 トデシタガ又此露艦ハ十八日午後五時  
 ニトシト出艦ヲ攻撃スルト云フテ居  
 ト申シマシタ  
 一今朝五時頃一乗ノ砲声ヲ聞ク時ニ私燭人  
 ハ茲ハ小島カノ大島ガノト云フヲ知ラ  
 セラシメタカ私モ意カラ見ヨト云フテ番兵  
 カ知ラセタカウ見ルト日本ノ汽船カ  
 丁許ノ如ク一隻見ヘラタカホー止テ  
 五名ノ日本人ガ露艦ヘ参リ居リシタ  
 終ニ露艦ハ乗リ来リシ模様ナレカ漸ク  
 ニシテ私ヲ番兵カ引出シテ左ノ肩ノ如ク  
 龍ノ印ヲ二個付ケタ艦長ノ様ナレカ

私ノ姓名ヲ聞カスニ依リ私ハ武蔵名古  
 ト答ヘラシタラ此ノコトトニ乗リ居  
 ト云フ様ナコトヲ云ハカ私ハ且コト  
 トレニ乗リトキ艦長ノ様ナレカ私ニ金ヲ渡  
 シテ果シマシタカ此銀ヲ去ヒツテ出シ  
 ルハ本人ヲシテ計算セシムルニ我通月貨  
 幣ニシテ五十銭ニ枚二十銭五枚十銭四  
 枚五銭一枚白銅ノ五銭七枚赤銅貨  
 三枚五銭於テ夜五厘抄枚及朝鮮銀  
 貨ニ銀五厘五枚及五厘銅貨二枚ノ計  
 日本銀三月九十六銭及朝鮮貨幣  
 銀五厘ナリ  
 一夫レカラ前後ニナリマシタカ十六日我カ去海

港ノ沖ニ日本軍艦三隻ニ本煙筒二本  
 櫓ノト露艦三隻カ戦局ヲシタノデス  
 夫レカラ今申ス我カ佐渡丸ヲ撃テ  
 コシタノデ私ハ甲板ニ出ントナントハ  
 去レテ居リマシタナレト一寸出テ見ルトハ  
 本ノ其軍艦百餘ニ見タリシハ、戦局中  
 逃ケマシムノデ方角ハ知りマセンカ  
 アントキ不意ニ止マリマシタ様ニ思フト日  
 本艦ノ中央カヲ異艦カ出マシタ夫レヲ  
 見タト馬クト露艦ノ内ニ本櫓二本煙  
 筒ノカ其日本軍艦ノ方ニ行クノヲ見  
 内ニ外ノ露艦カヲ私ノ乗ツテ居ル佐渡丸  
 ヲ撃テタノデシタカテ後ハ私カ海ニ船込ガ

ノテ更ニ鮮リコト

一私ハ之レカラ國元へ電報ヲ打ツテ夫レカラ  
 廣島ノ師團司令官部ニ行ク考デア私ハ  
 廣島ノ長沼組ノ軍夫デアリマスト  
 留置艦ハ午前七時頃江良町ヨリ引キ返シ  
 来リ山島及赤天島沖合ヲ遊ギシ一時  
 ハ浦塩ニ向テ進行セル様様ナリシカ  
 時ニシテ身影ヲ認メ全ク身影ヲ失ヒタリ  
 午後一時頃ニテ身ノ行概ハ明カニ認ムルヲ得サ  
 ルモ多分南方島浦塩方面ニ在リタルヲ  
 思料ス  
 右ノ報告ニ付  
 明治三十七年六月十八日



北海道廳

福山警務長

北見支隊

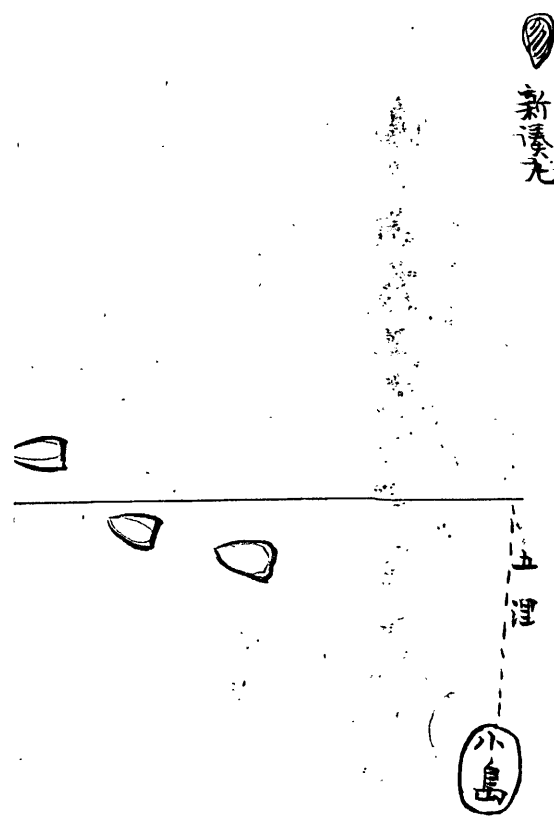
支隊長 坂田 誠

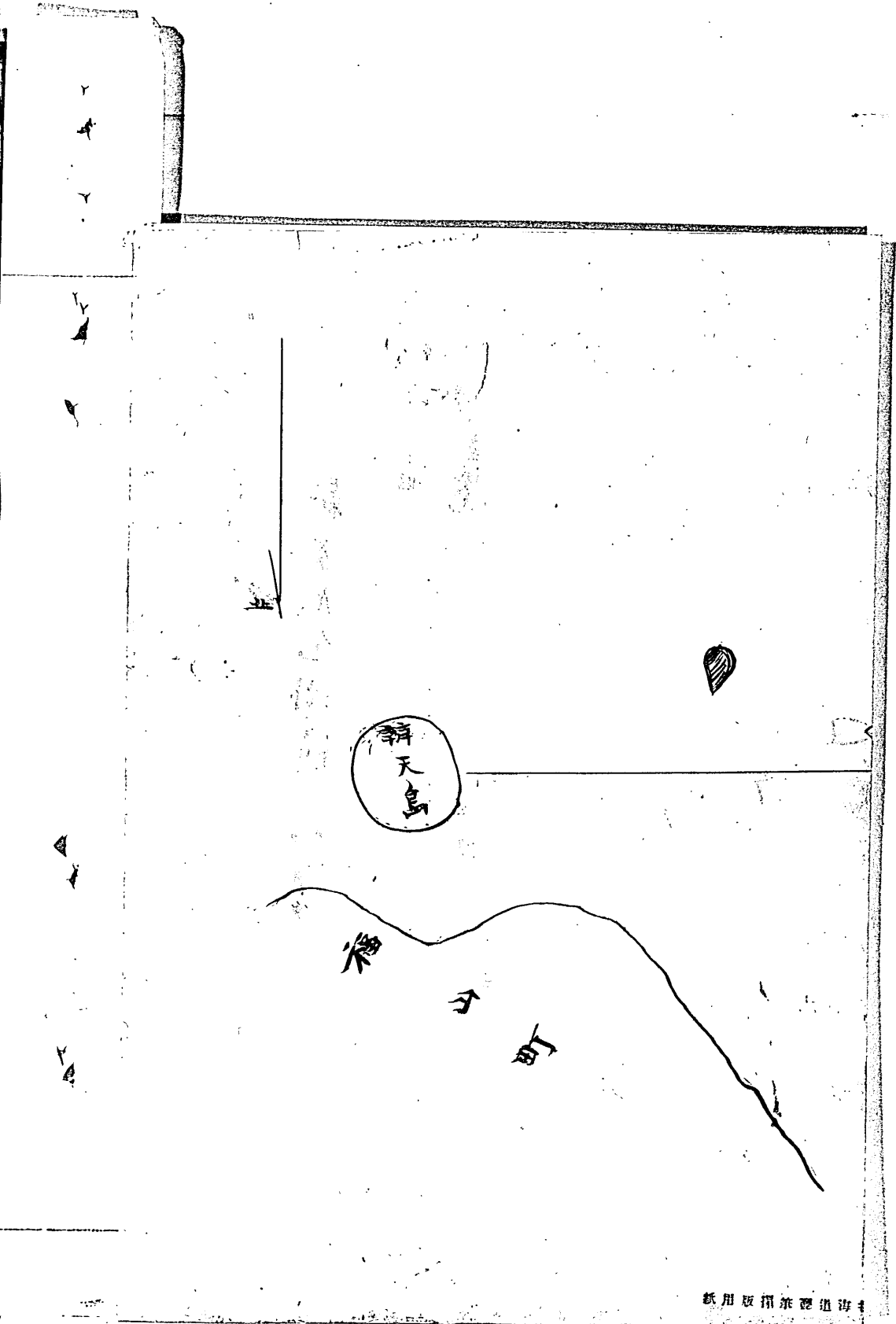
進ノ武庫先立ハ今日午後三時為館アリ福山ニ  
着ルル日本水雷艦ニ程乗込直ニ函館ニ至リ  
之ハ由ナリ(其他有誌)

新湊丸包圍前ノ略圖

○ 露艦

● 新湊丸





本島陸地を地事記に

明治三十七年六月廿一日

警政務局

生

八七二三

高警收身二九三五号  
 本月十六日日本道大島沖合ニテ露國  
 水雷艇ニ出會シ損害ヲ蒙リタル  
 左船八幡丸外二船長ニ當スル江差  
 警務署長ノ取書別紙ノ通ニ有テ水  
 雷艇ヨリ船長ニ托シタル書面字未相添  
 此段及報告也

明治三十七年六月二十二日

北海道廳長官豊野園田安賢

外務大臣豊野小村青太郎

通報先 (内相、外相、海相、陸相、正副官、)  
 被檢官、領事官、警察官、海軍官、(各官署)

七 庫 査 査

5-0363

0148

Уважаемый Господин Рунордович  
Сымамо & У. Р. Рундара Кэге Сибире Сибире.  
Very sorry that I am obliged by war conditions to pass  
so much more unhappy. I hope your Excellency shall  
help them. My best wishes and respects  
E. W. Wogradsky J. R. W. Minia 110.

手  
写  
原  
紙

5-0363

0149

His Excellency  
the Governor of Chakodate and  
Yezo. J<sup>d</sup>

川崎長太郎宛

5-0363

0150

葉組氏名ハ不要也

遭難取書

福井縣南條郡河野村大字今泉  
元十九日 船長 日本形帆五船  
安静丸 船長

紙谷伊三郎

元治元年九月廿

右明治三十七年六月十九日午前七時当番者

出頭左ノ通陳述也

一 船長ヲ兩種運轉セリ

二 本月七日午前四時北海道天塩國

増毛港ヲ出帆シ馬関ノ向ニ航行 途中

本月十六日午前十二時北緯四十一度五十三分

東經百三十七度ノ処ニ於テ露國水雷艇

遭難取書

5-0363

0151

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

三隻ノ為ニ母船ヲノ撃沈セラレマシタリ  
 時ノ安齋丸乗組員ハ十六名ヲアリマ  
 シム  
 一 水雷艇ヨリ始メ幸砲一發放テマシタリ  
 新ノ直ニ其命ニ伴ヒテ下帆シテ進行ヲ停  
 止致シマシタ  
 一 フクシマキント水雷艇ヨリ六七名ヲ乗  
 シムボトニ三隻ノ母船ヲニ差向テマシ  
 テボトトノ母船ヲニ横付テニシ一名ヲ  
 ボトトニ残リ外ハ向テ母船ヲニ突ツテ  
 考リ各自ニボトトニテ力ヲ示シ  
 幸ラシキ者ガフキヤノテト申シマシ  
 カラ私ハ其者ノ外ニ出マシタカキ真似テ

何カ致シマシタケレモ船シリカリマセンデ  
 シタガ何ニカ出エト云フ事ト思ヒ種々ノ  
 事ヲ出シマシタリ 其内ヨリ 船員 運転  
 士 船状ニテ 救國籍證者ニテ 燈臺表  
 等ニテ 航海日誌ニテ 浮環ニテ 個ヲ押  
 込致シマシタ 幸ラシキ者ハ 船長ヨリ  
 船ト水元長 中西大工等ヲ引ツテマシ  
 テヨシトシ 船ト船トニテ 水雷艇ニテ  
 行キマシタ  
 一 私ガ敵船ニ自行シラレ、陰ハ外ノ二隻ノ下  
 一 トリ 船ヲテ 船員ヲ 捜索シマシマシ  
 一 水兵等ガ 柱掛時ニ 一個ノメートトニ  
 一 個ノコンパスニ 個ノ國旗ニテ 外ニ 金銀ヲ

御座シタト云フヲ水夫共カラ御座シ  
 々外ノ事ハ格別目ノ凡ノ國旗ヲ押收  
 セラレタト云フコトガ甚々残念ニ思ハ  
 全銀ハ水夫共ニ渡シ會計係堂ノ下末吉カ  
 帳箱ノ内ニ任舞置キヨク百七拾月一  
 月紙幣九枚五日紙幣拾四枚一紙ハ帳箱ノ内ニ  
 別封トシテ仕舞置キヨク船主共ノ紙  
 幣財交マ百拾銀貨六拾五枚銀人會計  
 共有ノ金八拾月汗リ通高ヨ百七拾四日五  
 拾銀マツタノテアリマス私ハ金部押收  
 奮セラレタト疑メマスガ水夫共ノ言フ如ク  
 離失共ハ船内ヲ漁獲ニ應ニ捜索シ魚

北海 道 廳

用ノヲハ救ケ救ラシテ人會計係  
 シタトノ事ニテ金部トレリ一高ヤリ  
 常ノ場合故判明致シマセン  
 夫レカラ才ニボートニ會計係下末吉  
 以下右計五名ヲ集セラレ外ノ外官能  
 二連レテ行キ御座シマセン  
 殊銀員七名ノ内福井縣南越前 河野  
 村字 糠平 氏水夫橋本 才五郎 二十六年  
 石川縣北越前 産津村 平民 林 夫 味 耕  
 人 堂 長 氏 廿八年ハ安 齋 氏 二 氏 氏 氏 氏 氏  
 野 濱 氏 外 方 氏 八 氏 命 二 氏 氏 氏 氏 氏  
 トシテ自米四斗ノ三俵ト云  
 安齋氏ノ大傳馬一之七 命 氏 氏 氏 氏 氏

水雷艇ノ船ニ緊密ヤレシタ  
 一身静カノ捜索ガ終リ戦時禁制ヨリ  
 一少ノ艇ヲ船ト同辨シリナルヲ見テ二  
 名ヲ除ク外ノ一同ヲ水雷艇ニ抑置ル  
 下間モヤク私ノ乗テ居ル指合艇ヨリ何  
 指揮命ヲ下レシタルト他ノ水雷艇一  
 隻ヨリ大砲ニ発射シテ射口確  
 命中ノ致シタルヲ私リ理詔シシムガツ  
 ヲスル内ニ水雷艇ハ皆東ニ向ケ進出シ来リ  
 故ニ距離遠クナリ石ノ一母船見カドノ  
 位置ニ沈没シタル見届マセンテシム但シ  
 母船カニ積荷ガ沉山アリ魚目ナル故  
 勿論沈没シタル思ヒマス



本日午後八時頃、八幡船  
 室佐丸、二瀬佐斜、相前後に進行  
 中、八幡船が水雷艇一隻、室佐丸に二  
 隻、八幡船が、近寄り、室佐丸を停船  
 せし、搜索、後八幡船が、大砲二挺、船  
 中、二発、火炎を起した、中、二包、マ  
 シ見、間、沈没、シ、マシ、ソ、ソ、八幡  
 九、兼、船員、十六名、と、安、静、に、一、四、名、ト、シ、室  
 佐丸、一、連、行、キ、此、船、ニ、ラ、既、港、ニ、去  
 り、去、り、不、能、ノ、時、ハ、最近ノ、港、へ、行、ケ、ト、命  
 令、シ、セ、自、ヨ、リ、書、面、一、通、ヲ、私、ニ、渡、シ、此、書  
 面、ハ、必、管、ノ、官、長、へ、送、リ、函、館、へ、行、リ、船  
 中、他、ノ、港、へ、行、ス、ト、キ、ハ、其、地、ノ、官、長、へ  
 差、出、ス、マ、シ、ト、命、令、セ、ラ、レ、シ、故、ニ、水、雷、艇  
 ヨ、リ、ノ、書、面、ハ、只、今、實、官、へ、渡、シ、マ、シ、南、シ  
 テ、私、共、一、同、ノ、抑、留、ヲ、解、キ、マ、シ、タ、リ、今、日  
 ノ、午、後、八、時、頃、ア、リ、マ、ス  
 夫、レ、カ、ラ、一、同、船、議、ノ、上、江、差、港、へ、向、テ、進  
 行、ヲ、始、メ、マ、シ、タ、ガ、目、撃、者、無、ク、若、ク、ハ、無、目  
 ノ、方、ニ、漸、ク、本、日、(十九日)午、前、六、時、三、分、ニ、津、津  
 ニ、入、港、直、ニ、水、上、巡、査、派、出、ス、ル、届、出、ス、次  
 ア、テ、ア、リ、マ、ス  
 船、主、誰、カ  
 福、井、縣、南、条、郡、河、野、村、大、字、河、野、平、民、甲  
 村、三、五、區、ノ、所、有、テ、ア、リ、マ、ス、而、シ、テ、八、幡、船  
 船、主、ト、申、村、ト、ハ、見、界、ニ、シ、テ、本、家、別、家、ノ

北海道廳

<p>間 船一丁        長 船一丁        今 四百八十三石積        積 荷ハ何        船 一船一七        入 四十俵        積 荷ノ價        雙 二品ノ價        五 十員ノ船        現 金ハ百七        害 二百員ノ        百 員合計二        害 千八百</p>	<p>間 船一丁        長 船一丁        今 四百八十三石積        積 荷ハ何        船 一船一七        入 四十俵        積 荷ノ價        雙 二品ノ價        五 十員ノ船        現 金ハ百七        害 二百員ノ        百 員合計二        害 千八百</p>	<p>間 船一丁        長 船一丁        今 四百八十三石積        積 荷ハ何        船 一船一七        入 四十俵        積 荷ノ價        雙 二品ノ價        五 十員ノ船        現 金ハ百七        害 二百員ノ        百 員合計二        害 千八百</p>	<p>間 船一丁        長 船一丁        今 四百八十三石積        積 荷ハ何        船 一船一七        入 四十俵        積 荷ノ價        雙 二品ノ價        五 十員ノ船        現 金ハ百七        害 二百員ノ        百 員合計二        害 千八百</p>	<p>間 船一丁        長 船一丁        今 四百八十三石積        積 荷ハ何        船 一船一七        入 四十俵        積 荷ノ價        雙 二品ノ價        五 十員ノ船        現 金ハ百七        害 二百員ノ        百 員合計二        害 千八百</p>	<p>間 船一丁        長 船一丁        今 四百八十三石積        積 荷ハ何        船 一船一七        入 四十俵        積 荷ノ價        雙 二品ノ價        五 十員ノ船        現 金ハ百七        害 二百員ノ        百 員合計二        害 千八百</p>	<p>間 船一丁        長 船一丁        今 四百八十三石積        積 荷ハ何        船 一船一七        入 四十俵        積 荷ノ價        雙 二品ノ價        五 十員ノ船        現 金ハ百七        害 二百員ノ        百 員合計二        害 千八百</p>	<p>間 船一丁        長 船一丁        今 四百八十三石積        積 荷ハ何        船 一船一七        入 四十俵        積 荷ノ價        雙 二品ノ價        五 十員ノ船        現 金ハ百七        害 二百員ノ        百 員合計二        害 千八百</p>	<p>間 船一丁        長 船一丁        今 四百八十三石積        積 荷ハ何        船 一船一七        入 四十俵        積 荷ノ價        雙 二品ノ價        五 十員ノ船        現 金ハ百七        害 二百員ノ        百 員合計二        害 千八百</p>
--	--	--	--	--	--	--	--	--

橋本市五郎ト東井全太郎ヲ母靜丸ニ執  
 二其伴ニヨリ来タルハ如何ナル理由ナリヤ  
 兩名リ地メ全砲ヲ奪シ傳船ヲ命セラル  
 一ヤ非常ニ恐怖狼狽シテ船底ノ辺ニ隠  
 レタルヲ私ハ困難ノ際トテ伺ハズニ居リ  
 マシタ南シテ私ハ早々露船ニ押留セラレ  
 タル故船長ノ威勢ヲ自由ニ行フ能ハ  
 ズ夫レカラ是後ニ船員カ母靜丸ヨリ大  
 傳馬ニテ去ル際ニ右ノ二名不意セルヲ奪見  
 シ水夫坂野清吉ハ露兵ニ形容ヲ以テ二名  
 母靜丸ニ残り居ルニ依リ救助シテ号ト  
 解タルニ露兵ニ三名引逃シ行キ捜索口  
 号シタルモ船ノ暗キ処ニ隠レ居タル故見

当ノ日 泊り来り 坂野水夫ニ露兵ニ頼 自ラ引返シ行キ兩名ニ同行ヲ促シタル 兩名引どりて露國ニ連テテ行カシ 此ノ事モ船ト共ニ死スルハ本望故ニ等 權リテ行ツテ喜ヒト云フ 坂野水夫 日盤サレトモ其時ノ乗組員一員共ニ死 スベシ 露兵ノ命全行セシト云ワラ 位スモ由ルモ露兵全行セントシタル ノ(アツ)ト云フ 進退自任ニシ 露兵ニ容易ニ引退スルハ如何ナル 露兵ニテ死スルコト云フ 露兵 内ニ露兵ハ甲板ニ上リ来リ 此等ノ故 露兵ヲ流シテ其後ニシテ来 ト云フコトアリマス	北海道廳 水雷艦ニシテノ船ハ進行ヲ止メ 水雷艦ハ何レノ方向ヨリ進行シ 西北ノ間 舟子浦 露兵ノ方面ヨリ一 大島ノ方位ニ向ケテ来リマス 其時及前後ノ天候如何 天候ハヤ晴ルニシテ日ハ 先キニ霧障ニ如クシテ 機ニナワテアリマシタ夫レカ リ雨ニナリナセ日露兵 再ニ雨ニナリマシタ 自任如何
--	---

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100

岩 風向ハ十六日午前九時迄ハ南風ト相時後ハ  
 南北風ニシテ終日同勢ヲ極テ穏ニシテ波ハ  
 少シモアリマセンデシタ  
 水雷艇ノ形状等ハ如何  
 多少ノ大小ハアルカモ知レコエシガ水雷艇  
 ハ右長サ三テ尋即ニ四半位ニシテ一隻ハ  
 煙筒二本(右左舷ト諸カキニテ船長)ニ隻ハ  
 ハ煙筒一本ツリアリテ船体ハ何レモ仄色  
 テアリマス  
 三隻共大砲ハ首尾両方ニ各一門ツリ据付  
 テアリマス  
 二本煙筒ノ水雷艇ニハ船尾砲門ノ傍ナリ  
 ニ美形水雷ヲ備テアリマス他ノニ

北海道廳

5-0363



隻ニハ水雷ヲ見マセンデシタニ存烟筒ノ水  
 雷艇ノ煙筒ニハ赤白ノ二節（節ニ青ノ煙ヲ吐ク）  
 ノ印カアリマタ一本ノ水雷艇ノ内一隻ニハ  
 烟筒ニ赤色ノ筋ガ付テアリマシタ他ノ一  
 隻ニハ印ハアリマセンデシタ  
 其印ノ一隻ノ水雷艇ニハ左右両舷ニ之〇  
 ノ印アリテ見マシタ多クハ二百五号トテモ  
 ナリテナイカト思ヒマス  
 艇体ハ何レモ胴膨ミテ艀部ノ様ナ形テ  
 アリマシタ  
 水雷艇ニハ何名位某組居タリヤ  
 三十名乃至三十七名位ハ某組居タト思  
 ヒマス

八

問 海が水雷艇ニ抑留せられたる後ハ水雷艇

ハ如何ナル行動ヲ為シ居タルカ

答 一時間ヲ遅延シ平均ニ三九島ヨリ西に

百十一哩ヨリ五十哩内ノ間ヲ遊ヤシテ

居リマシタ共抑留ヲ解カレタル以後

ノ行先ハ後志國モアタ岬ノ方面ニ行

ル故多分オオサキ島ノ方ヘ行タルコト。

思ハラス

問 海が水雷艇ニ抑留せられたる間ニ何ニカ

尋問ヲ受ケザリシカ

答 海軍ト軍艦同ク士官カ示シ日本ノ二等

巡洋艦ニ隻小擧ニ属ルト云フコトカ

如何ト尋問セラレタルニ依リ私ハ知ラハト答

へ水ニ強鎗ニ何程ノ軍艦居ルカト尋

問セラレタルニ依リ知ラハト答 其他長嶺

新浜等ノ状況モ聞カレタルニ依リ知ラハト

答 答ハコト々

問 日本語ヲ問答シムカ

答 士官一人ハ強鎗小擧ニ新浜長嶺等軍艦

コト々ト云フ僅カ許リノ單語ヲ知リ

居タルニ其他ハ艦ヲ形見セテアリマシタ

問 艦内デ如何ナル取扱ヲ受ケタルカ

答 敵ヲ奇襲ノ取扱ハ受ケセシムコトハ將

官ニテモ小擧ニテ置カレシムコトハ

二葉巻煙草二本紙巻煙草四五本等

ヲ受ケタルコト

<p>洞 宝徳丸が来たらうがトババ汝等一日は何レニ      連レ行ク若シテトシ様様ヲ</p>	<p>岩 地固ヲ来らば然レ依レハ奥尻島ニ上      陸せしめん若シテトシ様様アアリマロク</p>	<p>洞 岩静丸ノ定製場ハ何レカ</p>	<p>岩 越前國 嘉賀港デス</p>	<p>洞 奥組員ノ住居氏名ハ</p>	<p>岩 別紙認メ差上々通テアリマス</p>	<p>洞 岩ハ寺静丸ヲ自ラ放棄し且ハ一箇ノ      水雷艦ニ撃沈シテ頼ミ之頼ミテトモ文      涉ラ受テテ甘請ヒハセナクカ</p>	<p>岩 一初右様ナニトハ御坐リマロン 船長ニ意      見モ伺ハレ何事モ交涉ナク撃沈サレタノデ</p>	<p>北海道廳</p>	<p>洞 アリマス</p>	<p>洞 空砲ヲ放テテ停船ヲ命セラレタレモトモ      トカ又ハ戦時禁制品等ヲ積ンデ居ルト      カ其他撃沈サレシ程ノ理由ハナカリシカア      ニハニ直ニ申送ラベシ</p>	<p>岩 前ニ詳細申上々通リノ次更ニニ交砲一      発デ停船ニ直ニ射撃ニハ積荷ハ船員      ノ食料ノ米ト類ノミニシク更ニ撃沈サ      レ様様ナトトハテテアリマス</p>	<p>右 録 取ス</p>	<p>明治三十七年 八月 下ルカ</p>	<p>江差 警務課長ニテハト長</p>	<p>岩 岩 中 来 渡 一 部</p>
---	---	----------------------	--------------------	--------------------	------------------------	---	---	-------------	---------------	---	--	---------------	----------------------	---------------------	----------------------



安静丸乗組員

原籍	氏名	年齢	備考
福井縣南條郡河野村字今泉十九号六番地平民	船長 紙谷伊三郎	元禄元年古月十日生	敵司令水雷艇
全上	堂下末吉	三十七年	〇
十五号十三番地平民	中西太兵衛	五十一年	〇
全村水字今泉十八号十七番地平民	谷吉藏	十八年	〇
全村十八号十八番地平民	上秋典三吉	卅二年	〇
全村大字河野三十三番地平民	垣下末吉	三十九年	〇
全 二十九番地	瀬戸政次郎	五十年	〇
全村字糖五十番地	山本仁太郎	三十五年	〇
全縣敦賀郡松原村字五石三十番地	長谷川文吉	五十年	〇
全縣能美郡中屋村字濱百二十五番地	堀 豊作	元禄年	〇
全縣羽咋郡羽咋町十五番地	坂野清吉	三十五年	〇
全郡一宮村字滝村三百十七番地			

5-0363

0163

<p>○印ノ者ハ船長紙金仔三郎ト 異ナル水電船ニ収容セ ラレタルモノ</p>	<p>△印ノ者ハ船中ニ レ安静ナル共ニ此ノ ト云ヒ安静ナル船 ニラレタル時高水商 船ニ乗ラリシモノ</p>	<p>○印ノ者七人ハ寶徳丸 ニ乗船スルヲ天間船ニ 乗セラレ居リタルモノナリ</p>
<p>全村字一宮十八番地 全九十六番地 全那木森村字今渡 全十四番地 全野鹿渡村 備前縣南條郡河野村字雅</p>	<p>全系善太郎 全三鴻嘉一 全濃坂駒次郎 全東井金太郎 全橋本市五郎</p>	<p>三十三年 二十七年 二十二年 二十八年 二十六年</p>

遺難誌

福井縣南條郡河野村大字河野

八幡丸船長

山田金藏

明治五年九月廿

右本月廿前七時十分江差警署署長三頭  
露園水雷船ノ内ニ乗セラレタル件ニ付左ノ通  
陳述セリ

一私ハ再種運転士ヲアリマシテ福井縣南條  
郡河野村大字河野平氏右近権左門  
所存日本形帆立船八幡丸一牛三百五十  
七石積ノ船長ヲ以テマカワリシテ船員

北海道廳

八新ノ外ニ十五名アリマスハ幡丸ノ北海  
 道天彦國増也ニ於テ難一箱今八百七十石  
 此價格ニ百六十石目胸難五十束價初ニ  
 十五日身欠難三本十五日白米四斗入三十一ハ  
 俵價格ニ百二十八目ノ物ヲ積ミ本月七日午  
 后四時増多ヲ出帆シ馬関ノ船行途中六月  
 十六日午右六時露國水雷船ニ馬押ハシテ  
 ハ幡丸ハ撃沈セラレテ乗組員十六名ハ空位ニ  
 ニ移カレ六月十九日午前六時三十分江差  
 ニ避難シテ参リマシタ  
 同 撃沈セラレタル揚天ノ何レナルヤ  
 北緯四十一度五十分東經百三十八度十九分ノ処  
 ニアリマス 恰度大島カラ五十三哩西北ノ方

向ニ参リマス  
 同 其當時空位丸ハ何レノ方面ヲ航行シ居タル  
 ヤ  
 答 船ヨリニ理位斜ニ沖ヲ航行シ居リ  
 テシタ  
 同 汝ハ露國水雷船ヲ何程ノ距離ニ於テ始  
 テ発見シタルヤ  
 答 四理位沖ヨリ認メマシタ  
 同 ハ幡丸遭難ノ顛末ハ如何  
 答 前ニ申上タル如ク午右六時露國水雷船  
 三隻ノ内一隻ハ空位丸ニ行キニ隻ハ八幡  
 丸ノ知ヘ参リ空位ヲニ奪クニ俾船ヲ命シ  
 マシタカリ下帆ニテ停船シマシタ水雷

北 港 運 庫

船ヨリハボートニ六名乗リテハ幡丸ニ乗リ船  
 内ヲ捜索シ軍需禁制品ニアラザル物許リナ  
 ルヲ認メテ而シテ船長現狀国籍証船舶検査  
 多階航海日誌ヲ押収シ外ニコンバニケ羅針  
 盤一ヶ柱時計一ヶ寒暖計一ヶト外ニ云々全二  
 十七八日(捕鯨船)ヲ押奪セリシニ云々尚私ノ  
 兵有懐中時計一ヶト巾着一ヶト手船一冊ト  
 フ靴ノ甲ヨリ捜シ出シ兵卒ノ一名が押奪  
 シテ手ニ持チ店々々ヲ説メ手裏似ニテ返却  
 フボメタルモ尚ヒ入シマセンデシカウ私ハ船  
 カヲ以テ取返シシカ夫レカウ形容ニ依ツテ  
 飲食物ニ着物ヲ持チ一同ハ幡丸ノ大傳馬  
 ニ乗移リ本船ヲ去レト云フニトナシテナリ

北 港 運 庫

マシタカウ大傳馬船ヲ乗シ夫レニ自米四俵  
 ヲ積ミ全貨トテ名乗移リ本船ヲ去リ敵  
 ノボートニ引カレテ露士官ノ命ニ依リ水  
 雷艇ニ乗キニ繋雷艇ニ乗リ安静丸船  
 員ノ傳馬船ノ尾ニ繋雷艇サレ間モトクハ  
 幡丸ニハ大砲ニ発射放チニ名乗上命申シ  
 加テレニニ名乗火災ヲ起シたカノ間ニ  
 名乗リ、沈没シマシタ私共ハ水雷艇ニ引  
 オレテ安静丸へ行キ一同安静丸ニテ密艦  
 へ去レ着シ不敵時ハ最近ノ港へ行ケト命  
 令サレ安静丸船長ニハ露艇ヨリ書面  
 一通渡サレ書マシタ放免サレタノハ午後八  
 時頃デアリマシタ

北 港 運 庫

問 何故ニ撃沈サレタト思フカ  
 答 私ハ毫モ撃沈セラルハ正當ノ理由ヲ認メ  
 ラレマセン其法ニ撃沈シ得ト海賊的行  
 爲ト認メテ居リマス  
 問 露艦ハ沙キヲ空砲丸へ移シタ後何レ  
 ニ向ニ進行シタルヤ  
 答 後高國モリタ岬ニ向ヒタル様ニ思ヒマス  
 問 ドウシテ露國が露艦ヲレトヲ知リタルヤ  
 答 露國軍艦旗ヲ掲ケテ居リマシタルカヲ確ニ露  
 國水雷艇ト認メタル  
 問 撃沈シタルニ依リ受ケタル艦損害ハ何程  
 カ  
 答 前ニ申シタル全載物品價格ニ万六千九百六

丁八四船体一千五百四船具一千五百四金三千  
 七四金船員一同ノ損害雜費 百四金計  
 三万の二百九十五日アリマス  
 問 遭難當時ノ天候ハ如何  
 答 風モ強カラズ波ハ靜橋アリマシタ其日ノ  
 正午前後迄ハ霧カアキマシタが午後ヨリ漸次  
 霧散シマシテ遭難當時ハ三浦カ至四浦ノ遠方  
 が見エマシタ  
 問 船員ノ住居氏名ハ  
 答 別紙ニ申上タル通アリマス  
 問 ハ艦丸ノ定撃場ハ何レナルヤ  
 答 東洋港アリマス  
 右録取ス



福州府南台周河野村字河野光早 七十五番地手民	宮下喜義	明治七年 八月六日生
生縣台郡合村字河野光早 番地不詳手民	治部久太郎	明治七年 一月七日生
石川縣津島郡島山村字河野光早 番地不詳手民	西野五三郎	明治七年 生月不詳
石川縣津島郡津島村字河野 番地不詳手民	米谷興之助	明治七年 生月不詳
石川縣津島郡津島村字河野 番地不詳手民	水戸藤藏	明治七年 生月不詳
合計拾六名		

漕雜聘取書

石川縣石川郡上金石町大字冬瓜町五番  
地平民日本形帆走船  
寶徳丸船長

三浦三右衛門

明治十五年

右ハ本日午三時三十分當署、出頭シ露國水  
雷艇ノ為メ、害マラシタル件、付左ノ通陳述セリ  
一 私人自公所有ノ日本形帆走船寶徳丸百八  
十五石積、船長ノ職務ヲ自ラ執職シ、練  
類取交セ、滿載加賀國金石港ニ向ケテ、月十  
二日午五時天塩國留前港ヲ出帆シ航行  
中、今日午十時廿分頃大島沖合

北海道廳

申酉方位凡々五十里ノ得ツル処ニ至リテ不圖  
 氷雷艇三隻ノモノハ西北ノ方ヨリ進行ニ来リ  
 タルヲ見まケハ奈見ノ距離ハ四里位ノ処デア  
 リヨシタガ彼ハ寶徳丸ニ方針ヲ向ケ近付キ  
 凡々百間許リノ距離ニ至リシ頃三隻ノ内  
 ニ隻ハ二里位ノ処ヲ航海中ノ大和船一隻  
 (ハ幡丸ノコト)ノ処へ向ケ進行一隻ハ我カ船体  
 向ケ近ツキニ奈ノ空砲ヲ放ケ信號燈ヲ示シ  
 キモノヲ上ゲテ合圖致シヨシタガ初ハ其ノ意味  
 ヲ了解セズ夫レカラ彼レハ其真似ニテ我ニ向ケ  
 帆ヲ卸セヨトノ様子ヲ示シヨシタガ茲ニ我ニ始メテ  
 露國氷雷艇ナレトヲ知り帆ヲ卸ロシ進行ヲ  
 止メヨシタラ氷雷艇ヨリ三入乗ノボート一隻



冬、私、指圖、シテ、積荷、ヲ、始、人、船、ヲ、隠、カ、ル、機、  
 シ、船、尾、ノ、屋、形、内、ニ、仕、舞、置、キ、タル、荷、物、ノ、仕、切、書、ヲ、  
 見、出、シ、テ、敵、兵、ノ、一、人、之、ヲ、年、握、リ、テ、返、一、カ、夫、ヲ、  
 私、向、ヒ、端、舟、ヲ、卸、シ、一、同、来、リ、テ、彼、ノ、水、雷、船、  
 漕、キ、行、ケ、ト、午、集、似、ニ、テ、ホ、ス、カ、ラ、如、何、セ、ト、  
 躊躇、シ、居、タル、処、ポ、ス、ト、ル、シ、ホ、シ、テ、威、嚇、致、シ、マ、  
 ス、カ、ラ、意、ヲ、決、シ、船、員、一、同、シ、名、傳、馬、船、ニ、乘、リ、  
 水、雷、船、ニ、漕、キ、水、雷、船、ニ、乘、リ、居、タル、処、寶、徳、  
 丸、ニ、残、リ、居、タル、露、兵、ハ、三、十、分、間、許、リ、シ、テ、水、雷、船、  
 ニ、帰、リ、来、タリ、ソ、ウ、シ、テ、他、ノ、水、雷、船、ト、何、ニ、カ、協、議、  
 テ、モ、遂、ニ、タ、ル、モ、ト、見、一、帰、船、ヲ、許、シ、續、テ、ハ、藩、丸、  
 船、員、十、六、名、安、静、丸、船、員、十、四、名、寶、徳、丸、送、  
 リ、届、ケ、ラ、レ、共、ニ、此、寶、徳、丸、ニ、乘、リ、テ、去、リ、ト、言、ハ、レ、テ、放、

北海道廳

還、セラ、レ、ユ、シ、タ、此、混、雜、ハ、凡、ク、一、時、間、半、ハ、要、シ、タ、カ、ト、思、  
 ヒ、ヨ、ス、ク、ウ、シ、テ、水、雷、船、ハ、東、南、ノ、向、ニ、向、ケ、進、行、致、  
 シ、ユ、シ、タ、

ソ、ウ、シ、テ、八、藩、丸、安、静、丸、ノ、兼、組、員、各、名、ヲ、兼、  
 込、マ、セ、タル、故、積、量、ヲ、過、キ、船、体、ノ、危、険、ヲ、慮、カ、  
 リ、テ、上、積、ノ、角、材、十、二、石、許、リ、テ、海、中、ニ、投、棄、シ、  
 凡、ニ、仕、セ、テ、漂、流、シ、ナ、カ、ラ、今、十、九、日、午、前、五、時、三、  
 十分、江、尾、ノ、入、港、難、シ、タル、次、ヲ、テ、ア、リ、マ、ス、  
 問、水、雷、船、ノ、為、メ、物、品、ヲ、押、収、セ、ラ、レ、タル、モ、ハ、ナ、キ、ヤ、  
 答、私、共、一、同、カ、水、雷、船、ニ、行、ク、テ、居、タ、留、守、中、ノ、跡、  
 寶、徳、丸、ニ、残、リ、居、タル、三、名、ノ、兵、ハ、無、法、ニ、モ、帳、簿、  
 等、ノ、中、ニ、仕、舞、置、キ、タル、懷、中、銀、御、時、計、一、個、算、  
 盤、一、個、水、夫、却、屋、ノ、箱、ニ、仕、舞、置、キ、タル、銀、御、時、計、

中時計一個船長室に係け置キタル八角時計  
 一個ヲ盗テ持テ去リ居リシク其近傍に隈  
 ナク捜索シテ何ニヤ角ヤ取散シテアリマシク  
 外に仕切書ヲ持テ去ラレモシク此損害高時  
 計一個ハ貳拾四一個ハ五拾五拾五拾五拾  
 ハ多ク四五拾五拾五拾五拾五拾五拾五拾  
 冬拾四外に漂流中投棄シタル材木ノ代價  
 ハ拾五拾四デアリマス  
 同積荷ノ種類價格ハ何程ナルヤ  
 各身欠二百廿一本價格九百五拾四五拾五  
 胴鍊四十石此價格五百十七拾五拾五  
 毎目三十石價格二百十七拾五拾五  
 鱧及子粒取交ハ二十三石價格百三十八拾  
 計千八百七拾貳四五拾五拾五拾五拾五拾

北海道廳

右録取ス

明治三十七年六月十九日

江尾警務署署長ニ於

同署署長

警部市末 涌一郎 印

三浦三右衛門 印

江尾警務署署長ニ於

造船和船隻徳九乗組員

職名	原籍	氏名	年令	備考
船長	石川縣石川郡金石町五番地平民	三浦三右衛門	五十五年	不備
水夫	全縣羽咋郡高島町二ノ田番地平民	中村久造	十八年	不備
	全縣全郡鹿浦村三上町五ノ番地	池水栄蔵	北年	
	富山縣射水郡作道村三津浦番地不詳平民	佐伯依七郎	二十年	
	石川縣羽咋郡高島町三番地平民	安津名友吉	五十二年	
	全縣石川郡金石町三ノ番地平民	三浦三太郎	二十一年	

北海道廳

5-0363

0173

明治三十七年六月廿一日 主官 政務局

生

ハセニニ

高警水才ニ九三ニ  
本月十八日松前郡江良町沖合ニお  
露船ノ見調ヲ受ケルニ港九船長ハ  
離水上ニ警奉命署ニ於テ分紙  
通陳述セリ右ハ本報福山  
皆ト重複ノ事有之ヲ復  
此段及報告也

明治三十七年六月廿一日

北海道廳長官 岡田安貞

外務大臣 野村素太郎殿

通察先 (本相外相陸相海相七師團長)

聽取書

北海道函館正船泊町十九番地年所

海夕

船二所 岸下 吉

十一月廿四日

右名電留名ニ出致シ左ノ陳述ヲ古クニ依リ之ヲ録取セリ  
一 船ノ泊山町ノ松前町山本町所存海船也港九(ニ百三十八  
四)ノ船長ヲ致シテ居リテ有船ハ本月十八日午前十時  
十四分初在島上居リ出帆三艘ニ向テ航行ノ途中十八日  
午二時五十分松前郡島ノ北島町トノ四浦沖 合リ通  
北北東方風ニ吹海浪以由ニ煙ヲ上げテ三隻ノ大軍艦ヲ認  
マシタ此時ニ高島ノ軍艦ナラシト思ヒ其伴進行シ敵艦ノ  
積リ多キ船ニ突ク所交ハマシタ段々近寄リシニ軍艦  
ヲ注意スルニ艦揚子ノ始メテ不審ニ思フ中船長ナリ

北海道廳





人ヲ以テ克クサレテアリマシタリ何レモ吾カハキキセ  
 アシトガ艦上ノ空ニ在ルニ付テ度私ノ背信ニ絶白ノ勢ヲ  
 露ノ長オ(白)多クシテ大キナ侍ノ老人ガ立ツテ居リ  
 又シテ後ヲセヨケバ此ガ司長官ノスルドモカト思  
 シマス  
 又復一軍艦ハカ島ヲ右ニ見ルト南南西ノ方ニ針  
 路ヲ取り去リし後船作方ノ白テテ行キマシタガ  
 後見入スナリマシタ  
 本船ヲ軍夫ト認テ致シマス存一岐厚船武  
 儀即云霧本船部云云見え古世三午ト云マス  
 舟一人口シヤ早ノ捕虜トナリ居ル人ト云ハル  
 古北西海西島ノ目一番地番番干一城ト云フテ英  
 舟ノソーテアリマス此ノ上ト軍夫ト云ハルヤ  
 船

底中軍艦ノ長官ト云ハルハ何レモ吾カハキキセ  
 カ砲撃シタレト傷散者ガ囀ラシテ居ルニ付テオキ  
 一テス此札艦ノ人一其五隊船アリト云フニ其船  
 之長ヲ見シテ此軍艦ノ砲撃ヲ用ニテ捕獲セヨシ  
 一テス此軍艦ノ砲撃ヲ用ニテ捕獲セヨシ  
 一軍夫ト云ハルヤ早ノ捕虜トナリ居ル人ト云ハル  
 古北西海西島ノ目一番地番番干一城ト云フテ英  
 舟ノソーテアリマス此ノ上ト軍夫ト云ハルヤ  
 船

三幸ノスリ四幸ノ... 煙筒ノ軍艦ガ表ハシテカヲ... 船長ノ始メテ... 命命命下シク間ニテク... 料理室ヲ母モ... 遠クト極メテ... 指申テ此ノ... 二則チ... 予不存ノ... 予不存ノ... 一幸ノ船ガ... 予不存ノ... トノ事...

予色を幸憐ヲ話シマシク  
三既ニ此ノ年... 名此ノ以出... 此ノ市役所... 川根ノカ... 船ノ... 此者... 此七... 此...

北 軍 艦





夏三

大臣

心

電信課長

Handwritten signature

次官

珍田

主管

Handwritten signature and stamp

電受第一三三九

號

明治二十七年六月廿七日午二時四七分

發着

外務大臣 北海道廳長友

王儲不日申送下認ムニシテハ隻

枝幸 駐京 鄂 歌登 村沖信ニ見エ濃務

ノ為メ派遣先不取

北見正 報 警 係 長 三 重 村

外務省

アリ(廿七日午二時十分着)右念ノ為

ノ申 報 ス

受之

大臣

電信課長

次官

珍田

主管

以生

蓋

電受第一三一號 明治二十七年三月廿一日 午後二時三分 着發

外務大臣

北海道庁長官

北見支庁 紋別郡 雄武村 遠川汗、大弘

三波小弘、被現、東南、向、進

夜中、雄武村、長、了、電報、了

二十七年三月廿一日 着發 大申、振、ス

外務省

多摩

大臣

次官

電信課長

主管

電受第三八二

號 明治廿六年六月廿二日午後五時五分

發

外務大臣

海運局長

國務不明軍艦二隻北西向青島沖

より傳へ奉り下宇谷整々署署長

より報告了(主官午後四時十五分著陸)

右軍報

外務省

録目付

生

文三通

大臣

次官

電信課長

主管

電受第一三八三號

明治廿九年六月廿一日

午後八時

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

分

外務大臣

少海運局長

先、報せし國務不明等、六月一日

如高和、サ、ヨリ、九他、英商、船、大、コト

判明、死、声、原因、不明、ハ、宗、各

警、察、署、長、ヨリ、報、告、ス、廿、五、午、後、七、時

外務省

三、索、者、也、在、軍、報、云

至急  
口伝

大臣

電信課長

Handwritten signature

（印）

次官

主管

Handwritten signature

表

電受第一三八四

號  
明治廿九年六月廿二日午後八時一分發

外務大臣

少海運府長官

本月廿七日午後此貨全砂利都砂利

沖ノマエ二烟突一軍機

西方向進航

報云一廿七日午後七時

外務省

申報

文書課

明治三十七年六月廿七日  
同 年 八 月 廿 七 日 發 遣

主任

小村北坊大臣

在在邦

接

次官

珍田

送第五九號

英心汽船公司ノ号佐佐丸乗込  
負救助ニ付表函ノ件

外務省

以重船政船上候陳者本月  
十日在海洋ニ於テ陸軍  
運送船遭難ニ際シ廿六日  
同司出帆ノ由英國汽船公司  
号(Dunkan)布達ノ航行ノ途次  
沖ノ島附近ニ於テ佐佐丸乗込  
員七十一名ヲ救助シ特ニ長崎  
ニ空ノ港ニ來葉設廠監視船

エリ汝サレ為メニ白人尋ハルル  
ヲ免ヤルニ趣キルルアリ美ニキ  
アハル故陸軍省ハヨリ信ヲ  
エーアトカレシ氏 J. I. Campbell  
表附アリハ均ク當知ナリト曰  
ト、相ナリ知ルニ且仁義ナリ  
ニ對シテ亦ハ汝等ハ亦知リテ  
志附表表示陸軍省ハヨリ  
外務省  
ノ事ハ上曰知ルル  
ハルルノ事ハ  
ハルルノ事ハ  
ハルルノ事ハ



大臣 次官  
政務 通商 人事 會計 取調

Via  
Handwritten signature

生  
珍田  
Circular stamp

Dated, Berlin, June 28th 1904 2-45 p.m.

Received, ..... 29th ..... 7-58 a.m.

Komura,  
Tokyo.

電受第  
二  
八  
五  
號  
Wds.  
行

No. 258. U. S. Ambassador in Russia transmits me telegram from U. S. Commercial Agent at Vladivostock, stating that survivors of Sado-maru and transports sunk on the June 16th and 17th arrived at Vladivostock June 20th. There were 103 Japanese, 4 British engineers, one Japanese passenger and 11 wounded Japanese. U. S. Commercial Agent visited them June 22nd and learned that all except the wounded were to be sent away on that day, and further states he will send list of names as soon as completed.

Inouye.

Handwritten notes

5-0363

0187

三三三  
三三三

大臣

七

電信課長

林

次官

印

主管

生

電受第一三六

號 明治廿七年六月廿九日午七時三分

發

小村海大臣 北海道廳長

電報 北見 釧路 函館 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口

形跡 釧路 函館 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口

仍三景 釧路 函館 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口

位別郡 釧路 函館 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口

核檢 釧路 函館 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口

老一 釧路 函館 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口

村長 釧路 函館 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口

丙丁 釧路 函館 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口

乙未 釧路 函館 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口

右 釧路 函館 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口

之 釧路 函館 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口

申 釧路 函館 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口

報 釧路 函館 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口

又 釧路 函館 青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 愛媛 高知 福岡 佐賀 長門 山口

外務省

5-0363

0100

日文三

大臣

次官 珍田

電信課長

主管

電受第一三八九號 明治廿九年六月廿九日午後三時五分

發着

外務省

北海道廳長官

金澤九昨夜九時過小樽、航行途中久志郡太田村沖南方一  
 行ノ三隻、船燈ヲ見露艦ト疑ヒ  
 船燈ヲ滅シ、耐久志郡太田村  
 二避難シ其疑、船通過後直、  
 小樽、長航疑、船ハ大島沖ヲ  
 行ぬ、不明ナリト久志郡署長ヨリ  
 報告アリ為念由 報ス

外務省

珍田

生

至急  
日文田

大臣  
次官

電信課長  
主管  
出

電受第一三〇七號  
明治三十七年七月二十一日  
午後三時三十分  
省發

外務大臣  
北海道廳長官  
本日午後十時天盜國境尻  
分署長ヨリ電報アリ  
午後九時次手賣島沖合  
軍艦ラニキモ七隻小樽方

而：向と進行ノ形其他不明ナリ

外務省

124

同

大臣

次官

電信課長

主管

電受第一三三號 明治廿七年七月二日 午後五時五分 發

外務大臣 海運局長官

右平倉署長より左ノ報告ニ  
二十午後一時  
五ノ不著電(大船三隻ヲ船四隻右平沖  
合リ此ノ行ノ右平報ニ

外務省

Handley 坂田

解

24

口立

大臣

次官

電信課長

主管

電受第一三二二號  
明治三十七年七月二日  
午後五時五分  
發着

外務大臣 海邊 駐長官

磯谷 署長 右報告 二時午後

時三 乘者 電 露 船 三 九 隻

磯谷 沖 十 海 里 所 碇 泊 居 止

右 中 報 入

外務省



24

和南可

大臣

電信課長

次官

主管

Handwritten signature and initials, including 'Hansen' and '坂田'.

電受第一三五號 明治廿七年七月二日 午後五時五分 發

外務省

元山 本

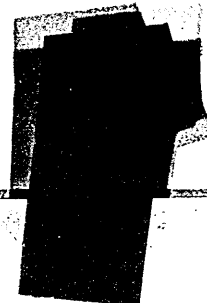
手名亦早了

沖島附近に昨夜海難あり、右我  
に伝ふ電報了、甚後、様子一  
支ナキ限リ片電報了

外務省

和三水雷艇午後三時出港了

24



大臣

次官

電信課長

主管



電受第一三八 號 明治三十二年七月二日午後八時三分 發

中村外務大臣 秘書長 代理 署名

外務省

昨夜海軍省より三浦附近海軍武官  
の報告に依り三浦附近海軍武官  
の通過にありて其後又同武官

ハ日土海方船隊の沖島附近に交  
戦中と報告ありて本官の方  
一場合、慮り各情知事、対し内  
務、海軍、偵察に注意を極電  
報し、露國船隊の後に、動靜  
を報知、得まし

24



明治 年 月 日  
起草 日發遣

出

電送第七〇番 明治二十七年七月三日 午後三時發

主任 芳一

第五五七号

新島 芳一

此電五七の号より其の秘録録の一日

午後五時次主海防西中平、形ヲ

外務省

外務省

教員三員ヲ選シ之ヲ送ルルモ其

レハ其ノ方角ニ逃シ間モナリ夜、カク

ルヲ以テ水雷艇ヲシラ内サレセメントシ

ルニ被ハ焼ト振向ナリ其ノ始火ヲ見

ラシヨ防ナシ後九時次送テ疎海

晴マナリトシテ其後、秘録七〇

秘録七〇

5-0363

0195

同  
四文

大臣

電信課長

次官

主管

電受第一三四號 明治三十七年七月三日 午前十一時三十分

着發

外務大臣

北海道廳長

奉白午前九時四十分古平郡後

玄圃泊村吉平公署長ヨリ左ノ

電報アリ

軍艦下碇り了モノ大小五隻

外務省

今幸西三行

右申報ス

大臣 次官 政務 通商 人事 會計 取調

Via  
幣原

坂田

生

Dated, Berlin, July 2nd 1904 2.15 p.m.  
Received, 3rd 5.30 a.m.

Komura,  
Tokyo.

No. 264. In reference to my telegram 258, I have just received list of survivors, in which military doctor Kudana, Komasa and battery officers Kodayami, Kadsho, Yano are mentioned. Details per mail.

Inouye.

電受第 二五三 號

35 Wds.

生

sent July 3, 1904 10.10 a.m.

Inouye.

Berlin.

179 In referene to your telegram 264, telegraphs the complete list of survivors.

Komura.

電送第 二四九 號  
Wds 10

取 會 人 通 政  
調 計 事 商 務

次 官  
大 臣

生 田

Via

Date, Berlin, July 3rd, 1904 2.05p m.

Received, 4th, 11.35a m.

Komura,

Tokyo.

265. / Survivors Japanese transports now pris-

ners:-

Sadomaru: British George Anderson, Master; John Dring, Mate; William Kerr, Engineer; Angus Carmichael, Machin-

ist; Japanese Okura, Master; Miosava, Military Doctor; Kusana, Komasa, Mates; Kurugi, Amana, Machin-

ists; Evamantsu, Miobe, Apprentices; Upova, Toboyami, Kavashi, Battery Officers; Kadayami, Kadshyo, Yano,

Railroad Men; Nakamura, Manager; Kanamoru, Suoi, Kani,

Assistants; Megata, Nakamura, Iosesava, Railroad Engi- neers; Misima, Yena, Kavasima, Railroad Men; Kioci, Ume-

da, Merchant Dalny passenger;

Idzumimaru: Jonoja Higo, Master; Kisiro, Argiu, Ciratot

Origu, Yendo, Sinso, Shebato Kosiro Hakatsu, Mates; Ku-

bodain, Chief Engineer; Johihari, Takama, Tosheiksa,

Yanagivara Kujero, Aoki, Kumao Kakubu, Budso, Jmade,

電 受 第

號

Wds.

183

-2-

Assistant engineers; Ioshiro, Iomedi, Bunjuro, Fururia, Clerks; Tanesaburo Sugita, Steward; Manabuki Magi, Clerk Nakano, Kimura, Kingsita, Kato, Kurasava, Susuki, Mates; Ioshimato, Obi, Ogawa, Kashi, Bayabao, Tabusa, Inosimura, Arimoru, Deck Hands; Ura, Kishi, Kawasaki, Madgukashi, Ukinama, Tanakushi, Sekia, Arakava, Nakai, Kero-hita, Engine men; Yaomoto, Naruji, Miakava, Fusiamoto, Firemen; Mikumo, Deck hand and Fuji coolies perished during attack at sea. Fujii Saachero, Freight clerk; Sakifokomats, Gotō, Kitavava, Firemen; Taksasi Diutaro, Yamagussi Hangji, Cooks; Uso Ikasabaro, Boys; Katayama Bunjiji, Kamato, Satako Jurmato, coolies; Nowin hospital wounded one Dohokirmato buried today.

Inouye.

常陸丸佐渡丸和泉丸乗組船員遭難調

明治三十七年七月二日調

常陸丸

- 一 死七者 即ケ死体発見セシ者 六名
- 一 生死不明ナレドモ死七ノ疑アル者 九十六名
- 一 生存者 十七名

生存者等ノ申立ヲ綜合シテ推測スルニ本船船員ハ敵艦ヨリ砲撃ヲ受ケタル際負傷ノ為メ死亡シ又ハ本船ノ沈没ト共ニ溺死シ或ハ漂流ノ後溺死シ敵艦ニ收容セラレタル者ハ皆魚トハ断言シ難カシモ生死不明者ノ多数ハ死亡ノ疑アリ

佐渡丸

- 一 死体発見アル者 六名
  - 一 溺死ノ疑アル者 十九名
  - 一 行衛不明者 六名
  - 一 敵艦ニ被收容ノ疑アル者 八十七名
  - 一 生存者 八十七名
- 生存者等ノ申立ヲ綜合シテ推測スルニ本船船員中行衛不明者ノ内ニハ若干名敵艦ニ收容セラレタルノ疑アリ

和泉丸

本船乗組船員ハ一人モ歸還セサルヲ以テ模様ヲ知ルニ由ナキモ宇品司令部ニ於テ同船乗組兵士等ヲ取調ラシタル處ニ依リ遭難當時死亡者四名以外ノ者ハ多分敵艦ニ被收容ノモノト察セラル

(明治三十七年) 常陸丸乗組役員調

明治三十七年七月二日調

摘要

英國グリーントン、オース、ロート街四七番  
 47, North Road, Dalington 英國人  
 英國倫敦、フオレスト、ゲート、ハイ、ト、街  
 一八二番 182, Select Road, Southgate 英國人  
 福井県福井市清川中町八六番地土族  
 〇東京市日本橋区濱町丁目一七番地木村英二方  
 山口県吉敷郡上宇野令村三三番屋敷土族  
 〇兵庫県武庫郡御影町御家村二四五番地西村昌方  
 熊本県上益城郡御船町九六番地土族  
 長九郎 弟  
 大分県宇佐郡八幡村六六番地平民  
 大坂市北區富島町四六九番屋敷平民  
 仙之助 四男  
 蘇州、ダム、街二十五番  
 〇山形県米澤市新町一町五三八番地土族戸主  
 〇東京市牛込区天末町二八番地  
 福井県速敷郡西津村堀屋敷第六号東堀  
 五番地土族 戸主

籍

職名

月給額

氏名

一等運轉士	百七十四	無六番	John Campbell
二等運轉士	百二十四	無六番	Samuel J. Bally
首席	四十		木村 亀次
首席	三十		山崎 良助
南船学校航海科 卒業生	十五		松本 儀三 次
南船学校航海科 卒業生	五		用正 真盛
南船学校航海科 卒業生	五		武田 邦蔵
機関長	百十四	James Glass	James Glass
一等機関士	五十四		立岩 義雄
二等機関士	四十四		西島 得一

不明トレト  
 死七疑フ  
 東京市芝区三田四町二番地一号  
 鈴木長五郎 同居  
 神戸市中山手通二丁目六三番地平民 戸主  
 東京市芝区三田居塚町二十番地土族  
 榮匠 三男  
 長崎県下県郡日吉町四九番戸同居平民  
 戸主  
 和歌山県和歌山市出甲賀町四番地土族  
 惟清 二男  
 死体発見  
 〇石川県江沼郡大聖寺町字中新道七八番地土族  
 〇東京市芝区三田五九町一番地 忠厚 長男  
 〇廣島県廣島市比治山町六九番地土族 戸主

次席	三十四		鈴木 鶴三郎
首席	三十四		田島 幸三
二等機関士	三十四		武谷 禎三
次席	三十四		小河 寛二
高船学校機 関科修業生	五		森本 圭次郎
事務長	四十		太田 耕平
事務員	三十四		戸田 一男
全	二十四		丸茂 徹吉

役員合計 十八名

帝属一

(明治三十七年三月十日供用) 帝陸丸乘組属員調

(明治三十七年七月十日調)

摘要	本籍地	職名	月給額	氏名
死体発見 (本人不認定)	廣島県佐伯郡飛渡瀬村八番番次一番屋敷平民	水夫長	十九日	河内鶴松
不明死亡 疑り	廣島県加茂郡仁方村一〇番屋敷平民長松三男	大工	十九日	松本勘次郎
不明死亡 疑り	廣島県尾道郡倉橋島村百九十八番屋敷平民主	大工助手	十五日	友澤友太郎
不明死亡 疑り	廣島県尾道郡久友村字沖友四六番地平民主	舵取	十七日	藤田勝次
不明死亡 疑り	大分県北海部郡下江村二六番地平民主	舵取	十七日	伊東助市
不明死亡 疑り	東京府台東区三根村三〇番平民豆太郎弟	舵取	十五日	土屋小三郎
不明死亡 疑り	石川県鳳至郡河津村字北川一四番地平民平藏三男	舵取	十五日	苗島榮太郎
不明死亡 疑り	福井県坂井郡新保村十六番二番地平民利三郎次男	甲板方番	十六日	白河興市
不明死亡 疑り	愛媛県道智郡弓削村大字弓削一九番平民徳太郎次子	点燈方	十四日	波上吉五郎
不明死亡 疑り	横濱市天町四丁目一五三番地平民主	水夫	十三日	二見金次郎
死体発見 (本人不認定)	廣島市宇津島町四八番屋敷平民原松長四男	水夫	十三日	船倉義一
不明死亡 疑り	香川県木田郡廣治町二六番平民常藏長男	水夫	十三日	増谷貞吉
不明死亡 疑り	新渡県中環郡根越村大字田屋三七番平民助作弟	水夫	十三日	杉浦閑治
不明死亡 疑り	千葉県夷隅郡大原町三七六番地平民主	水夫	十二日	永野真太郎
不明死亡 疑り	京都市下京区四条通新町四ノ入三番平民	水夫	十二日	森島治三郎
不明死亡 疑り	岡山県津島郡大島中村三五五番地平民七太郎長男	水夫	十二日	二階堂元藏
不明死亡 疑り	廣島県沼津郡田島村五〇番屋敷平民定平二男	水夫	十二日	鈴木藤松
不明死亡 疑り	廣島県海部郡向島西村二五〇番屋敷平民忠六長男	水夫	十日	坂井太吉
不明死亡 疑り	熊本県鹿本郡大造村大字万保田三四番地平民辰次長男	水夫	十日	野田新吾
不明死亡 疑り	大阪市西區九条大字九条番外一六三番屋敷平民主	水夫	十日	坂田萬次郎
不明死亡 疑り	栃木県安蘇郡植野村大字船津川七番地平民万吉二男	水夫	十日	福地直次郎
不明死亡 疑り	冲绳県島尻郡座間味町切原村三十四番地平民	水夫	九日	仲村盛吉

不明七上毛 死亡ノ疑アリ	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	水夫	九田	沖本友一
生存	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	水夫	九田	吉原捨吉
不明七上毛死 亡ノ疑アリ	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	水夫	九田	河井 晴吉
生存	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	水夫	九田	植村元藏
不明七上毛死 亡ノ疑アリ	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	水夫	九田	徳留紋之丞
生存	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	水夫	九田	田中倉松
不明七上毛死 亡ノ疑アリ	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	水夫	九田	鈴木菊次郎
生存	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	水夫	九田	中村由太郎
不明七上毛死 亡ノ疑アリ	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	水夫	九田	友田徳松
生存	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	水夫	九田	一色房三郎
不明七上毛死 亡ノ疑アリ	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	水夫	九田	小野廣二
生存	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	水夫	九田	宮元猪助

不明七上毛 死亡ノ疑アリ	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	火夫	十三田	山崎勇次郎
生存	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	火夫	十三田	清水運吉
不明七上毛死 亡ノ疑アリ	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	火夫	十三田	鈴木勉二
生存	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	火夫	十三田	鍋岡久次郎
不明七上毛死 亡ノ疑アリ	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	火夫	十三田	橋寄島吉
生存	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	火夫	十三田	濱 久吉
不明七上毛死 亡ノ疑アリ	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	火夫	十三田	濱口豊次郎
生存	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	火夫	十三田	赤松亀次郎
不明七上毛死 亡ノ疑アリ	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	火夫	十三田	藤原重助
生存	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	火夫	十三田	柏木甚作
不明七上毛死 亡ノ疑アリ	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	火夫	十三田	山瀬辰次郎
生存	廣島島田郡多岐村字以友 平民森茂 太田信子	火夫	十三田	堀本甚太郎



不明ナレトモ  
死ニ疑アリ

愛媛県北宇和郡宇和島町大字檢大町  
一。三番戸平氏産主  
愛媛県越智郡東伯方村大字木浦ノ香  
五番戸平氏又治春嗣子  
新瀉県中頸城郡高田町大字下職人八番  
戸山平氏松作長男  
長野県西筑前郡奈良川村一八番地  
長崎県南松浦郡富江村九五番戸平氏  
清治弟  
山梨県中巨戸郡玉膳村一六五番戸  
平氏未蔵二男  
石川県鹿島郡七尾町字本町三番地一  
平氏向田与三右三門養子  
高知県吾川郡小川村椋ノ木山無家平氏  
徳次三男  
福岡県速賀郡黒崎村一六八番地  
卯三郎長男  
廣島県如安郡竹原町一三三番屋敷  
平氏儀助二男  
千葉県長生郡東陣村谷本一六五番地  
平氏仙吉弟  
岐阜県山県郡若野田村栗野一八番戸  
土族鍾蔵長男

生 存

火 夫 十二回 玉和木寅一  
全 十二回 中村音吉  
全 十二回 田中一造  
全 十二回 伊藤市平  
全 十二回 池田竹松  
全 十二回 新海銀治郎  
火 夫 十二回 向田市太郎  
石炭夫 十四回 岡林岩馬  
全 十四回 森田喜九郎  
全 十四回 渡橋栄松  
全 十四回 関谷菜助  
全 十四回 阿部健次

常島ノ三

不明ナレトモ  
死ニ疑アリ

静岡県安部郡安未村北安未  
愛媛県上浮穴郡父崎村一二三  
京都府愛宕郡宇下鴨村二一  
鹿児島市住吉町九

千葉県君津郡金田村牛込一〇四  
神崎徳次郎同居平氏差原次男  
福井県福井市豊島中町七番地ノ二  
土族土彦之助二男  
愛媛県越智郡今治町大字室屋町  
五番地ノ二番戸土族慎平三男  
佐賀県藤津郡五所田村大字谷所  
三二番地日居土族産主  
長崎県十善寺稻田一三番地平氏産主  
廣島市宇白島町一番地ノ一平氏産主  
埼玉県北埼玉郡豊野村大字阿佐間  
四二番地平氏戸主

石炭夫 九回 望月彌作  
全 九回 大塚鶴太郎  
全 九回 石田長次郎  
全 九回 井上新太郎

火夫見習 無給 神崎次郎  
荷物方 十四回 前田外卷  
全 十一回 浮穴竹三郎  
全 廿五回 喜多傳一  
司 厨 廿七回 小淵磯八  
料理人 十六回 桂為治郎  
料理人 十四回 松本寅藏  
料理人 十四回 松本寅藏

不明 死亡 疑アリ	生 存	兵庫 明石郡 明石町 内當津村 四三四番 屋敷 土族 主	二和 料 食	十二 四	河 人 良 善 足
不明 死亡 疑アリ	生 存	静岡 市草津 町百十五 番地	二和 料 食	九 四	大 村 寛 孝
不明 死亡 疑アリ	右 同	香川 景三 豊郡吉 津村上 番戸平 民房治 長男	二和 料 食	八 四	片 山 伊 三 郎
不明 死亡 疑アリ	右 同	岡山 都窪郡 庄村大 字木島 五四五 番地平 民	二和 料 食	八 四	三 宅 吟 兵 衛
不明 死亡 疑アリ	右 同	神奈 川景 橋樹郡 田村市 場一三四 九	二和 料 食	八 四	森 柳 太 郎
不明 死亡 疑アリ	右 同	福岡 豊前 倉郡 木村大 字池田 六六三 番地 平民 三男	二和 料 食	八 四	井 手 豊 作
不明 死亡 疑アリ	右 同	兵庫 東粟 郡山 崎町内 山崎町 三四八 番屋 敷平民 主	二和 料 食	七 四	進 明 重 吉
不明 死亡 疑アリ	右 同	愛媛 豊後 郡神 和村大 字元怒 九六	二和 料 食	七 四	柳 瀬 庄 松
不明 死亡 疑アリ	右 同	山口 豊後 郡厚 南村三 七二番 屋敷平 民三男	二和 料 食	十三 四	竹 内 正 作
不明 死亡 疑アリ	右 同	廣島 豊田 郡忠 徳町四 四六六 番地平 民	二和 料 食	十二 四	河 田 信 之 助
不明 死亡 疑アリ	右 同	石川 丹波 郡山 代村大 字山代 六八四 番地 土族 平民	二和 料 食	十二 四	伊 藤 六 郎
不明 死亡 疑アリ	死 体 發 見 屋 下 議 定 ス	静岡 豊田 郡内 浦村重 寺三六 番地平 民 六子 長男	二和 料 食	十二 四	土 屋 礦 造

常馬  
四

不明 死亡 疑アリ	生 存	廣島 豊前 郡吉 和村八 七二番 屋敷平 民藤助 三男	二和 料 食	十二 四	砂 田 寅 松
不明 死亡 疑アリ	生 存	山口 豊前 郡伊 佐村六 九番 屋敷左 居 平民 三男	二和 料 食	十二 四	樋 口 朝 生
不明 死亡 疑アリ	生 存	東京 市白 子區 北新 町河 岸一五 番地平 民 長男	二和 料 食	十二 四	高 浦 捨 三 郎
不明 死亡 疑アリ	右 同	廣島 市宇 野村 百四 番屋敷 平民 是郎 男	二和 料 食	八 四	末 塚 信 之 助
不明 死亡 疑アリ	右 同	山口 豊前 郡清 水村大 字清 水百五 番屋敷 平民 五男	二和 料 食	七 四	鐵 田 嘉 太 郎
不明 死亡 疑アリ	右 同	廣島 市宇 野村 三四一 番地平 民 三男	二和 料 食	七 四	福 田 龜 次 郎
不明 死亡 疑アリ	右 同	廣島 市宇 野村 仁保 山一三 五	二和 料 食	九 四	上 井 盛 吉
不明 死亡 疑アリ	右 同	福井 市福 井市 大和 町三九 番地平 民 主	二和 料 食	七 四	石 田 勇 三 郎
不明 死亡 疑アリ	右 同	新潟 県中 頸郡 直江 村大字 直江 一四 番地 平民 二男	二和 料 食	八 四	片 田 格 二 郎
不明 死亡 疑アリ	右 同	千葉 県山 根郡 片貝 村片貝 二七 四三番 地平民 三男 弟	二和 料 食	七 四	小 川 修
不明 死亡 疑アリ	生 存	長野 県上 野郡 伊豆 町九五 三番 地平民 三男 長男	二和 料 食	八 四	宮 下 由 太 郎
不明 死亡 疑アリ	生 存	高野 県三 重郡 本山 村大字 三番 地平民 三男 新六 二男	二和 料 食	八 四	坂 井 磯 吉

不明七比死七 疑アリ	千葉系及津那飯野村下飯野八十七番地 小野光孝方四十五畝 森片牙	三寺冷仕	八田	秋葉吉之助
六全	山口県都濃郡徳山町五七六	三寺冷仕	七田	生駒周次
六全	長野県上伊那郡赤穂村大字 長野 飯野 長男	三寺冷仕	四田	船坂孝方郎
六全	千葉県安房郡白濱村七百八十三番地 上原末道長男	三寺冷仕	七田	野村貞道
六全	廣島県御厨郡原田村大字小原百六十二 番野平氏平主	三寺冷仕	五田	三浦利左衛門
生存	和山県日高郡比井崎村大字阿尾四百七十四 番地平氏由松氏	三寺冷仕	五田	末倉五郎松
生存	京都府南桑田郡龜岡町字合部百六十三 番平氏竹二郎三男	三寺冷仕	四田	八田才次郎
不明七比死七 疑アリ	埼玉縣入間郡勝呂村大字赤尾	三寺冷仕	四田	林 新藏

合計百。姓名

常角ノ五



(明治三十七年 五月九日發行) 仿渡九乘組備員調

三十七年七月二日調

本 備 員 地

職名	月給額	氏名
水大長	十九円	福永龍太郎
大下	十九円	鶴岡長八
本助手	十九円	井上高治郎
鮫	取十七円	堀内亀太郎
鮫	取十七円	山本佐次郎
鮫	取十五円	野中駒吉
鮫	取十五円	塚田長藏
甲級津番	十六円	太田長三郎
高級方	十四円	金澤嘉十郎
水大	十三円	長井宗藏

水大	十三円	小川利八
水大	十三円	山本昌吉
水大	十三円	只出善経
水大	十二円	荒木白太郎
水大	十二円	鈴木泉太郎
水大	十二円	久太嘉中
水大	十円	長石松太郎
水大	十円	福片柳水
水大	十円	安藤定八
水大	十円	平袋茂助
水大	九円	岡本建治
水大	九円	東村敏忠

生存	廣見島縣始良郡山田村大山五二平民	水夫	九円	出水亀吉
同	福島縣相馬郡太田村鶴堂字輪六五平民	水夫	九円	門馬重治
同	備後國廣島郡服部村字新山	水夫	十円	近藤利右門
同	廣島縣豊田郡久友村字久比六一八	水夫	見習	萬徳庄太郎
不明	神奈川縣橋本郡保土谷町神戸七三六平民	火夫長	十八円	古谷清吉
不明	茨城縣赤松郡五霞村大字山五四六平民	油差	十七円	関峰次郎
生存	千葉縣印旛郡佐倉町内将門町三八七士族	油差	十七円	赤尾 湛
不明	栃木縣那須郡佐久山町字佐久山五八八平民	油差	十六円	加藤彦三郎
生存	佐賀縣藤津郡久間村三六二平民	油差	十六円	田中清八
同	廣島縣御調郡重井村一八四平民	油差	十六円	峯松藤三郎
同	三重縣志那大野村七九平民	機關倉番	十六円	高山光次郎
同	愛媛縣温泉郡北条町大字安尾島一六六平民	小汽鑪番	十五円	大堀忠吉

佐属二

不明	愛媛縣越智郡与前村大字字割二六八平民	火夫	十三円	山崎富太郎
生存	廣島縣御調郡三庄村九一回居士族	火夫	十三円	坂口幸平
同	長野縣埴科郡坂城村一三七平民	火夫	十三円	谷川直次郎
同	群島縣邑樂郡三野谷村大字入谷村二一平民	火夫	十三円	竹條原林藏
同	茨城縣行方郡玉造町一五三平民	火夫	十三円	長谷川清太郎
同	高知市掛川町六五平民	火夫	十三円	田中徳治
同	愛媛縣喜多郡中子町中子甲一九七平民	火夫	十三円	米澤喜多吉
同	廣島縣御調郡重井村四九二平民	火夫	十三円	村上紋之助
同	三重縣南牟婁郡井田村字井田一〇八生	火夫	十二円	尾崎梅松
同	廣見島縣川辺郡東南方村枕崎三六四平民	火夫	十二円	原村清之助
同	兵庫縣榎保郡越部村内仙村七平民	火夫	十二円	加島藤彌
同	廣島縣鞆郡鞆島御園字山村三四平民	火夫	十二円	橋野太藏

不明	嶺南郡新田村南原四〇四丁氏	火夫	十二円	青木信次郎
生存	嶺南郡新田村南原二二二丁氏	火夫	十二円	平本善次郎
不明	松野町日吉町中町二二四丁	火夫	十二円	熊代常太郎
不明	長崎町東津野町飯田村一一一丁氏	火夫	十二円	田崎周作
不明	千葉町松尾町西町見物二八〇丁氏	火夫	十二円	本間義郎
不明	大坂市西區船場町三丁目一	石炭夫	十四円	今井宗太郎
不明	愛媛県伊予郡東の方村宗太郎一五三八丁氏	石炭夫	十四円	村上幾次
不明	香根町本町美保町新田三三三丁氏	石炭夫	十四円	野村善一
不明	松野山崎町市人保町三三三丁氏	石炭夫	十四円	松谷福松
不明	三重町伊勢郡一志町三津野中津野三丁氏	石炭夫	十四円	本原次郎
不明	石川町新田町植杉町中町三丁氏	石炭夫	十四円	藤原庄太郎
不明	神戸市東灘区三丁目八五丁氏	石炭夫	九円	
生存	徳島県那賀郡新田村大字中林村三五丁氏	石炭夫	六円	武田晴利
不明	徳島県那賀郡新田村大字中林村一八八丁氏	石炭夫	九円	本林下捨松
不明	徳島県那賀郡新田村大字中林村三六五丁氏	石炭夫	九円	奥山新松
不明	山口縣新田郡本武北村四一	石炭夫	九円	神田喜一
不明	長崎県長門郡長門村大字長門一四二丁氏	火夫見習		田川知満
不明	鳥取県鳥取郡鳥取町大字北雲一三四丁氏	荷物方	十八円	成田源一
不明	松野町新田町新田町三三三丁氏	荷物方	十三円	由良垣彦
不明	大坂市東区上本町三丁目三一丁氏	荷物方	十四円	堤敏郎
不明	山形県原野郡原野村三三二丁氏	司厨	十二円	竹内藤一
不明	福島県石川郡神谷村藤岡字一五丁氏	司厨	十二円	佐藤松吉
不明	神奈川県横浜市磯子区大島七二一丁氏	司厨	八円	青木定六
不明	大坂市東区野町三丁目二六八	司厨	十八円	高橋喜一郎

法多ノ三





令 令 令 令 令 令  
生 不 令 令 令 令  
存 册

廣鳴市宇山町五十番次一番尾為士族  
廣鳴市宇山町三丁目三番次三番平氏  
中野政政町川下村二丁目四番平氏  
大塚府西成郡傳法村本郷留三九四平氏  
富山物四郎中傳法村本郷留三九四平氏  
廣島物四郎中傳法村本郷留三九四平氏  
山口縣大島郡口良度村土屋平氏

属員合計百七十六

臨時  
物倉和理人  
臨時  
物倉和理人  
臨時  
物倉和理人  
臨時  
物倉和理人  
臨時  
物倉和理人  
臨時  
物倉和理人  
臨時  
物倉和理人  
臨時  
物倉和理人  
臨時  
物倉和理人  
臨時  
物倉和理人

十円  
五円  
五円  
五円  
五円  
五円  
五円  
四円

中村多門  
香川勝吉  
清水右宗  
大平李太郎  
北島喜一郎  
松下吉次郎  
野村松太郎

佐家ノ四

(明治三十七年二月四日) 和泉丸乗組役員調 (明治三十七年六月十六日現在)

原籍 職名 月給額 氏名

- 東京府荏原郡品川町大字北品川宿三七番地 船長 五百十四 肥後猪之丞 〇
- 静冈県田方郡中見村柳瀬三番地 一等運轉士 五十五 柳生甲子郎 〇
- 。神戸市東平野村二百五十番地 柳生愛子 二等運轉士 三十四 柴田信藏 〇
- 兵庫県印南郡東神吉村白西井戸村五十一番屋敷 平氏吉太郎 四男 三等運轉士 三十四 白鳥信一 〇
- 長野県上伊那郡箕輪村百四十四番地 平民 本校航海科 五 田中津幸次郎 〇
- 。東京市芝区芝口二丁目二番地 中垣迪康 修業生 五 田中津幸次郎 〇
- 徳島県勝浦郡小松島村大字中郷村百六十八番屋敷 船員長 百三十四 久保 傳 〇
- 。平氏 廣島航海科 五 田中津幸次郎 〇
- 鹿児島県能毛郡北種子村西表三三番五上番 土族 修業生 五 田中津幸次郎 〇
- 高知県長岡郡三里村仁井田百九十七番屋敷 平民 機関長 百三十四 久保 傳 〇
- 栃木県下都賀郡南大銅村大字國谷三八番地 平民 林藏弟 二等機関士 四十四 高山義治 〇
- 。東京市下谷区西町二番地 執職一等 四十四 高山義治 〇
- 兵庫県赤穂郡有年村由東有年七三番屋敷 平民 二等機関士 四十四 柳原敏久 〇
- 。神戸市東平野村五十六番 四 執職二等 三十四 青木久次郎 〇
- 東京府北豊島郡王子村大字王子二百二十九番地 平民 二等機関士 三十四 青木久次郎 〇

軽傷

- 埼玉県北埼玉郡忍町大字忍五百上番地 平民 信房 長男 員外 三等機関士 三十四 國分熊男 〇
- 山口県熊毛郡上関村大字長島五百。六番屋敷 平民 簡易機関科 修業生 五 田今田重藏 〇
- 東京市深川区小松町六番地 事務長代理 三十四 吉田栄次郎 〇
- 静岡県田方郡三島村六百六十九番地 事務員 三十四 古谷文次郎 〇

役員合計 拾四名





